One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

156
2008
October

特集

座談会・留学生に聞く

同志社のあるべき「国際化」とは

●同志社人訪問

JA全農代表理事理事長

宮下 弘さんに聞く

CONTENTS 2008 OCTOBER No.156

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動

特集・座談会
留学生に聞く
同志社のあるべき「国際化」とは ---- 2

B・S・クラークが同志社デビュー ---- 9
クラーク記念館修復工事の竣工を祝して　本井 康博　神学部教授

2007年度 大学決算について ---- 11

同志社の研究は今 ---- 13
ライフラインの要、電気に関する学際的・総合的研究拠点
インフラストラクチャー研究センター　雨谷 昭弘　理工学部教授

CAMPUS NEWS ---- 15
世界学生環境サミットin 京都、本学を中心に開催／インターナショナル・ネゴシエーション・コンペティションにて同志社大学チーム入賞／大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）に採択／本学卒業生の北京オリンピックでの活躍について／「同志社大学ホームカミングデー2008」のご案内／オープンキャンパス2008 開催／お兄さんお姉さんと一緒に遊ぼう「寒梅館夏まつり'08」／2008 年度卒業式・学位授与式、2009 年度入学式／卒業生の新刊図書／本学教職員の執筆図書の紹介／Present for you

在学生・教員の活動

OP COMMENTARY ---- 19
持続可能な未来の社会に向けて　西村 仁志　総合政策科学研究科准教授

MY PURPOSE ---- 27
学生対抗「情報危機管理コンテスト」で3連覇 ～適切なトラブル対応の経験を実社会でも生かしたい～
松村 百合さん（工学部情報システムデザイン学科4年次生）

卒業生の活動

INTERVIEW ～同志社人訪問～ ---- 20
ＪＡ全農（全国農業協同組合連合会）代表理事理事長
宮下 弘さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ ---- 23
・小林 香さん（2000年法学部政治学科卒業）
・立野 智一さん（2002年経済学部卒業）

ANNOUNCEMENT ---- 25

表紙の情景［Davis Café（デイヴィス カフェ）］

2008年4月、旧「オリンピア食堂」をリニューアルして誕生した「Davis Café」。清潔感のある店内に、オープンテラスを併設するお洒落な店舗に生まれ変わった。また、メニューも一新され、アスリート向けにはボリュームのあるメニューが充実し、スポーツ用のテーピングやプロテインを販売するなど、体育地区食堂としての役割もしっかりと果たしている。

名称は体育施設であるデイヴィス記念館に隣接することにちなんだもの。席数は166。

留学生に聞く 同志社のあるべき「国際化」とは

同志社大学は、教育理念の1つに「国際主義」を掲げ、
在学生を海外の大学へ派遣しているほか、
様々な国から多数の留学生を受け入れている。
しかし、学内において留学生以外の学生が留学生と触れ合う機会は多くはなく、
彼らがどのように学問に励んでいるのかを知ることは少ない。
2006年4月、国際連携を戦略的に推進するために設立した
「国際連携推進機構」を今年4月に改組、事務体制を整え、
インフラ整備や派遣・受入留学生の増加など、
より充実した国際戦略を展開していこうとしている今、
同志社大学らしい国際化とは、国際連携に必要なものとは何か。
実際に同志社大学で学ぶ留学生の視点で語ってもらった。

同志社大学で学んでいること

黒木●今、同志社大学にはトータルで551名の留学生が学んでいますが、それは全学生の2%程度に過ぎません。私たちはこれを5%に増やしていきたいと考えています。そのためにもこういう機会を通して、同志社大学で学ぶことについて率直な意見をお聞きしたいと思っています。まず、それぞれの自己紹介を兼ねて、出身国と所属学部・研究科、主にどんな勉強・研究をしているかを教えてください。

金恵允（キム ヘユン）●韓国出身で商学部に在学中です。主にアジアの経済や財閥企業、商品の歴史について勉強しています。

王正明（ワン チェンミン）●私は台湾から来ました。経済学部3年次生で、経済学の他に、国際性を身につけたいと思い、副専攻として国際司法を勉強しています。

王欣（オウ キン）●中国の武漢大学から交換留学生として来ました。今は文学研究科国文学専攻博士課程（後期）に所属しています。今年は1年目なのでわからないことばかりですが、山田和人先生のゼミで日本近世文学、主に上田秋成の小説について研究しています。

中西ペネロープ●オーストラリア・ニューキャッセル市出身で、高校卒業以来13年間日本に住んでいます。社会学部教育文化学科3年次生で、山田礼子先生のゼミに所属しています。ゼミでは主に教育問題を扱っているのですが、特に留学生問題を中心にしています。来年は卒論でホームスクーリングを取り上げる予定です。

金 恵允（キム ヘユン）さん
商学部商学科4年次

黒木 保博 コーディネーター
社会学部教授、国際連携推進機構長

中西 ペネロープさん
社会学部教育文化学科3年次

高 永珍（ゴ ヨンジン）さん
文学研究科国文学専攻博士課程（前期）

黒木●ホームスクーリングというのは？

中西●子どもたちを学校ではなく、家庭内で教育することです。親の教育方針によるものですが、こういう家庭が増えています。日本ではまだ400人ぐらいですが、アメリカでは20万人ぐらいいます。

高永珍（ゴ ヨンジン）●韓国の大田（テジョン）というところの出身です。今は文学研究科国文学専攻博士課程（前期）で、王欣さんと同じ山田和人教授のゼミに所属しています。私も近世文学の中で近松門左衛門という人形浄瑠璃の作家、舞台芸術としての人形浄瑠璃の語りという表現を中心に、「物尽し」について研究しています。

黒木●個人的にも大変関心があるのですが、世界中にいろんな国があり、日本の中にもいろんな大学があります。その中で、みなさんはなぜ同志社大学を選ばれたのでしょうか。

高●少し長くなってもいいですか（笑）。私は高校の時から外国語に興味を持っていました。韓国には第1外国語と第2外国語があり、英語ブームがあってみんな英語の授業を受けていた世代なのですが、英語に限らず言葉を通じていろんな国の文化に接するのが楽しくて仕方がない時期があったのです。英語以外にどんな言葉がありどんな文化があるのかを模索していく中で、音楽に興味があって音楽からいろんな国の言葉を知ろうとしました。中でもオペラに興味があって、イタリア語と、近い国ということで中国語を第2外国語に選んだのです。その時弟が選んでいたのが日本語でした。

私が高校を卒業したのは1998年ですが、ちょうど金大中大統領が文化解放をした時期にも重なっていて、すごく日本の文化が韓国に入ってきた時代でした。そうして、音楽を通じて4カ国語ぐらいの言葉に接しながら文化を勉強していて、大学受験で受かったのが英語と日本語だったのです。最初は外国語なら何でもいいという感覚だったのですが、専門として2つを選ばないといけなくなった時に、英語は普通にやっていける、でも日本語は、日本が近くて遠い国と言われるように、距離は近いのになぜこんなに遠く感じるのか、もっと深く知りたいと思って、日本語を勉強しようと大学に進学しました。

同志社大学を選んだ理由

黒木●日本語を勉強し始めたのが日本の大学に留学するきっかけだったのですね。

高●はい、大学で日本の文化、人に接して、より日本語が好きになり、運よく交換留学で3年の時に1年間、沖縄国際大学に行くことができました。その経験から直接行って学ぶことの楽しさ、大切さ、人間関係がどれだけ広がるかを知ったのです。でも、日本語を3年間学んでもまだ足りないという気持ちがあり、大学院でもう少し深い勉強をしてみようと決心をしました。

黒木●研究対象は何だったのですか。

高●文学です。特に日本人の恋愛観が文学にどのように表れているのか、中でも太宰治の心中事件に見られる恋愛観に興味があ

り、それが作品とどんな関係を持っているのか、といったことを研究していました。大宰は心中未遂事件を繰り返して結局心中して死んだのですが、それは私の恋愛観と違うと思いました。研究法を指導教官に相談をしたところ、心中について深く知るにはもっと歴史を遡ればいいと言われ、そうやって調べているうちに近松の世話物という作品に出会ったのです。もともと私は日本語の言語演劇をやっていて、「語り」がすごく自分に合うという確信がありました。それで、修士の2年目から近代文学から近世文学に変えて勉強しようと思ったのですが、残念ながら教えてくれる先生がいません。日本に留学し直接教えてほしいと思い、韓国にいる日本人の先生などに相談したり、自分でもインターネットを検索して調べました。どこにどういう大学があってどんな学部があるのか、知人から得た情報も参考にしながら、自分のやりたいことができる大学はどこかと探しました。

黒木●それで同志社大学が見つかった?

高●実は、私の母校の先生が大阪市立大学の出身でした。大阪市立大学にも浄瑠璃を専門にしている先生がいらっしゃったのですが、聞くともう定年だということで、その先生が同志社大学の山田先生ならすごくいい指導をしてもらえると教えてくださったのです。大阪市立大学の先生のところへ行って、「同志社大学へ行きたい」と言って連絡がとれるようにしていただきました。夏休み中だったと思うのですが、直接山田先生を訪ねて、先生のところで勉強したいと言い、試験を受けて、入ることになりました。

留学生に聞く

同志社のあるべき「国際化」とは

王欣（オウ キン）さん
文学研究科国文学専攻博士課程（後期）

王正明（ワン チェンミン）さん
経済学部経済学科3年次

「良心教育」の言葉に魅かれて

黒木●たいへん詳しい説明をありがとうございました(笑)。中西さんの場合はどういう理由だったのですか。

中西●私は13年前から日本に住んでいて、今は滋賀県の守山にいるのですが、あまり遠いところには行きたくない、家から通えるところと決めていたので、入るなら同志社か立命館と思っていました。クリスチャンということもあり、キリスト教主義の同志社に魅力を感じました。どんな学部があり、どんな設備があるのかはまったく知らなかったのですが、高校時代から教育に興味を持っていたので、同志社で教育を勉強したいと思いました。準備として日本語のプライベートレッスンを受けたのですが、その先生も同志社を勧めてくれて、社会学部教育文化学科がいいと教えてくれました。今は同志社大学に入ってすごくよかったと思っています。

黒木●金さんも高君と同じ韓国ですが。

金●私は子どものころからいろんなところへ出かけていましたので、日本へも来る機会は何度もありました。来るたびに感動していたのは、日本では観光施設など昔の文化がきちんと保存されていることと、日本の商品は品質が良くて、デザイン性、値段などどこにも負けていないということでした。それで観光と商品にすごく興味を持っていて、商学部か観光学部に入って勉強したいと思っていました。日本の中でも関西は、京都は歴史のある町で、大阪は商業の町、神戸もあり、それぞれに強い個性をもった都市が集まっている地域です。その関西という地域にすごく魅力を感じ、4年間過ごすのなら学校以外の生活も大事にしたかったので、関西を希望しました。同志社大学は自分がイメージしてきた大学とすごく合ったところだったので、ここだったらうまくやっていけると思って選びました。

王正明●私の場合は、台湾で日本に留学すると決めた時、日本のことを学ぶのなら古い文化が残った京都と思い、まず京都を中心に考えました。当時、同志社大学が台湾で留学生フェアに参加していて、その時はまだ立命館も考えていたのですが、パンフレットの表に「良心教育」とあるのを見て、その言葉にすごく引きつけられました。校地を比べて、同志社大学の方が歴史の深みを感じられたことも大きいです。もう1つ、3年前の時点で、立命館にはすでに数十名の台湾人の留学生がいたのですが、同志社には1人しかいなかった。冒険してみようという気持ちもあって同志社大学を選びました。

黒木●「良心教育」の言葉に魅力を感じてくれたというのは嬉しいですね。王欣さんの場合はいかがですか。

王欣●私の状況はみなさんとちょっと違います。私のいた中国の武漢大学と同志社大学はもともと姉妹校で、私が武漢大学で修士課程を受ける時の指導教授が同志社大学の卒業生でした。その先生は学生の時、この文学研究科の向井先生のゼミに参加していて、「ぜひあなたも同志社大学で日本の古典文学を勉強してください」と言われたのです。私の専門も高さんと同じように日本の近世文学で、研究対象は上田秋成です。彼が一生

を過ごした場所は主に大阪と京都でしたから、京都で勉強できれば、上田秋成がどこで何をしていたのか自分の目で確認できると思いました。それで先生の推薦もあり、交換留学制度で同志社大学に来ました。

上がっている同志社大学の知名度

黒木●みなさんは同志社大学について、いろんな方法で情報を入手されたようですが、母国では同志社大学の情報はどの程度得られるのでしょう。

中西●オーストラリアではほとんどゼロに近いです(笑)

高●韓国では京都というと、清水寺、金閣寺、同志社大学といっていいほどで、キャンパス内を観光ガイドブックをもって歩いている韓国人を結構見かけます。

金●少しでも興味を持って探そうとすれば、資料は結構手に入れられる状況だと思います。

黒木●台湾では?

王正明●ここ2、3年でどんどん知名度が上がってきています。台湾にはよく知られたインターネットの掲示板があり、そこから留学の情報などをいろいろ手に入れることができるのですが、この3年ほどは同志社に関する情報がかなり多くなっています。私自身も台湾留学生会の会長を務めていますので、その掲示板を通していろんな人とコミュニケーションをとったり、同志社に関するインフォメーションを提供したりしています。日本に留学したい人、特に関西に留学したいという人なら、同志社大学のことは必ず知っていると思います。

黒木●中国ではいかがですか。

王欣●以前は日本への留学といえば、東大や早稲田が有名でしたが、近年は関西の大学も知られるようになってきました。特にうちの大学では同志社大学で勉強したり、研究したりしていた先生が多く、同志社の先生も講演などをされていますので、よく知られています。

黒木●最初に申し上げたように、留学生にどんどん来て学んでほしいのですが、同志社大学が海外で知名度を上げるためには、どういうことをアピールしていけばいいのか、みなさんの考えを聞かせてください。

金●私は昨年、韓国の留学生会の会長を務めていて、自分なりに外部に同志社の名前を広げようと頑張っていたのですが、やっぱりいちばん大事なのは、在学生の力だと思います。留学生会でもホームページを通じていろんな質問に答えたりしていますが、発信する方に本当に大学を愛する気持ちがないとアピールできません。韓国では修学旅行や卒業旅行で同志社を訪問する人が増えていますから、そうした時に在学生が直接応対してガイドをしたりする機会はたくさんあるはずです。強い味方を作ることが大事なので、何より在学生が大学に対する愛を持つようにすることだと思いますね。

王正明●台湾に姉妹校を作ることがいちばん簡単で確実な方法だと思います。台湾留学生会でもいろいろやっていますが、留学生個人の力では限界がありますから。

中西●私は場所だと思います。京都にあるのはやはり大きな魅力だし、こんな素晴らしい環境で勉強できるのは本当に幸せです。そして、剣道や茶道、華道、日本の文化的なサークルがたくさんありますが、そういう活動を宣伝すれば欧米の人たちには効果があると思います。日本の文化に興味を持っている人たちが多いので、直接ふれ合えるチャンス、場所、活動をアピールすることです。あと教育方針も大事です。オーストラリアの大学では教育方針をあまり宣伝しません。こういう学生を育てることを目指しているということがわかれば、すごく魅力だと思います。

京都にある有利さをPRすべき

黒木●北京大学歴史学部のある先生にこう言われたことがあります。「京都に来るまでは京都大学が市内の真ん中にあると思っていた。実際に来てみると、京都の真ん中は同志社だった」。同志社の北には臨済宗のお寺があり、南には御所がある。一方は仏教で、もう一方は神道と歴史的にも密接なかかわりをもつ皇室が住んでいた場所、その間にキリスト教主義の大学がある。このユニークな環境をアピールするべきだと、その先生は言われたのです。

高●確かに先生のおっしゃる通りだと思います。場所に関する魅力はどこにも負けません。京都の中心でいろんな文化財に囲まれているという点はどんどんPRすべきだと思います。ただ、そういうことは得ようと思えば得られる情報なので、得ようと思っている人にどういうふうに与えるかという工夫をすればいいのではないでしょうか。さっき言われたように、学生同士の間でどうしたらいいか、アイデアを募集したりするとか。やっぱりいちばん近い人たちですから、去年、今年来たような人に、どういうふうに情報を発信していけばいいか、聞いてみるといいと思います。国によって少しずつやり方も違うと思いますし、例えば韓国の場合だと、最近は高校を出てからすぐ来る学生が増えています。韓国の大学の魅力が落ちているということもあると思いますが、海外に目を向ける人が増えているのです。特に文化解放の恵みをいっぱい受けた世代は、高校時代に日本語の検定1級などをとっている人が多い。そういう人は日本語のネットなどは簡単に調べられますから、そんな人たちにアピールするようなものを作っていくべきです。大きく2パターンがあって、1つは日本の企業に勤めたいということで、向こうの大学を卒業してこっちの大学に編入する人、もう1つが高校を出てすぐ来る人、その両方に対応するシステムを作っていくといいと思います。

黒木●中国ではいかがですか。確か中国は毎年40万人ぐらい世界中に留学しているのですよね。それを考えると、同志社大学は中国にどういう情報を発信すればいいのでしょう。

王欣●みなさんがおっしゃっている通り、まず同志社大学は京都にあることをPRするといいと思います。中国では今ほとんどが一人っ子で、親としては自分の子どもを大都会に行かせたいのです。そういう意味では、京都

や東京は親にとってはいちばんいい選択肢だと思います。その意味で、同志社大学が京都にあるということは、すごく有利です。そしてうちの大学の場合は、同志社大学から先生が来て講演をされる場合、学生の親も参加します。やはりその大学の先生と直接ふれあう機会があれば、親としては安心できます。もう1つ、うちの大学では、2年次、3年次で日本の大学に短期留学した場合、卒業して大学院に進む時その大学を選ぶ確率が高いです。半年ぐらい短期留学すれば、その大学のよさがわかって行きたくなると思います。

黒木●教員はどんどん海外の大学に出かけていき、短期留学のシステムを作るということですね。

王欣●うちの大学では長崎外国語大学との間で短期留学の制度があって、半年で5名の学生が留学しています。同志社大学にもそういうシステムがあればいいと思います。中国の親が子どもを海外へ行かせたいと考えた時、日本はいちばん近い国ですから。

留学生が勉強しやすい環境づくりを

黒木●少し個人的なことも聞いておきましょう。同志社大学に入学して困ったこと、戸惑ったこと、こういうものがあればいいと思うことがあれば教えてほしいのですが。

金●在学生だけじゃなく、これから同志社大学に進学しようとしている人にとって、いちばん大きな悩みは寮の問題です。寮だと安心できるし、お金もあまりかからないのですが、同志社は寮が少なくて、希望している人が全員入れるわけではありません。もう1つ、在学生からよく聞く不満は、奨学金を受けられる基準がわからないということです。すごく勉強を頑張っていてトップの成績だと思うのに奨学金がもらえないのはなぜ、という声が入ってきたりします。みんなが妥当だと思える条件をはっきり作ってほしいと思います。あと韓国だけではなくて、中国、台湾の方も同じかもしれませんが、留学生会は公認団体ではないため、サークルボックスなどを得ることができないと聞いています。留学生が集まることがすごく難しく、京田辺では国際ラウンジに集まることができるのですが、今出川に来てからそれができなくなり、どんどん離れ離れになってきています。ですから留学生が集まれる場所を作ってほしいです。

全員●賛成！

王正明●私も金さんと同じ問題をよく聞かれますね。やはり第1は寮の問題です。インターネットでも「寮はありますか」「もし入れなかったらどうすればいいですか」という質問が毎年あります。奨学金の問題も、友だちの間で「どうして僕はもらえないんだろう。選考基準はどうなっているんだろう」と言い合ったりしています。そして、留学生団体が学校と連携する活動がもう少しほしいです。国際教育課の人とはいろんなイベントに参加したりしているのですが、学校との間でそういう交流のチャンスをもっと作ってもらえたらいいと思います。

中西●私が困るのはノートがうまく取れないことです。長く日本に住んでいますから、聞き取るのは難しくないのですが、書くのはう

まくありません。ノートがしっかり取れないと、授業の内容を忘れてしまいますし、試験の時にも困ります。ボランティアのような形で日本人の学生が助けてくれるとうれしいのですが。

高●やはり留学生は、勉強や研究をしに来ているわけですから、それができる理想的な環境を整えていただけるとうれしいです。まず奨学金など経済的な面を援助してもらえるとありがたいです。また、留学生はみんな努力をしていると思うのですが、研究の仕方など言葉の面で不自由することがあるので、ボランティアなどの補助がついてくれたらすごく助かります。国費なら別ですが、私費できている人は自分で協力してくれる人を見つけないといけません。シャイな人には難しいので、制度化して決めてもらえるとうれしいですね。

日本人学生との交流を深めるには

黒木●先ほど留学生会の交流の話が出ましたが、困っている留学生を助けるという意味でも、日本の学生と留学生が交流を深めていく、刺激を与え合って活性化していくにはどうすればいいのでしょう。交流する場所を作ったりシステムを作ったりすることも必要かと思いますが。

中西●留学生のラウンジもいいですが、そこに日本人の学生も入れるようにすればいいのではないかと思います。留学生だけのラウンジだと、中国人は中国語だけ、韓国人は韓国語だけ、私は中国語も韓国語もしゃべれませんから、日本語を共通語にすれば、日本人の学生も含めてみんなとコミュニケーションがとれます。

王正明●最近は台湾へ旅行したいという日本人の学生も多くて、台湾のどこへいけばいいのか、どこがおもしろいのかといったことを、台湾人の留学生が教えるという機会が増えています。留学生はもっと日本の学生と触れ合いたいと思っているのですが、そのきっかけがあまりないですね。

王欣●私は今、同志社大学の学生寮のハワイハウスに住んでいるのですが、ほとんど外国人の留学生ばかりです。もう1つのリチャーズハウスには、留学生と日本人の学生が住んでいます。そこでは、おそらく国際教育課の主催だと思うのですが、2、3回懇親会のようなものがありました。夜、会議室のようなところに集まって一緒に食事をしたり、すごく楽しかったです。そして、そこに住んでいる日本人の学生の提案で、今は映画会をやっています。1カ月に1回、ハワイハウスとリチャーズハウスの間の野外で、建物の壁をスクリーンにして映画を上映するのですが、映画の前と後にみんなで話をする時間があり、とてもいいアイデアだと思います。

王正明●映画の話はいいですね。今月は韓国の映画、来月は台湾の映画、その次は中国の映画というふうにしていけばおもしろいですね。

黒木●日本政府はこれまで留学生10万人計画というものを進めていて、現在日本には11万8000人ほどの留学生が来ています。そして、将来これを30万人にする計画があります。私は数だけではなくもっと留学生を受け入れやすい環境作りが必要だと思うのですが、同志社大学ということを離れて、日本がもっと外国人を受け入れて国際的な国になるにはどうしたら良いと思いますか。日頃の生活から率直な意見をお聞かせください。

中西●小学生の時から国際教育をしていくことが必要だと思います。国際化のためにはやはり英語を話すことが大事ですから、英語を小学校の学習科目に入れるように、文部科学省がもう一度小学校教育を見つめ直す必要があると思います。

留学生が卒業後も日本で働けるように

金●私は去年の冬から今年の春まで就職活動をしていたのですが、そこで実感したのは、今日本にはたくさんの留学生がいても、受け入れてくれる企業がものすごく少ないということです。私の場合韓国の高校を出てすぐ来たのですが、韓国で一緒に日本語を勉強していた友だちが20人ほどいます。彼女たちが日本で就職しようとした時、日本の永住権を持っているかと聞かれ、持っていないというと、断られたり、障害がたくさんあったそうです。日本は海外からいろんな人材を呼び込んで、勉強できる環境は作っていますが、そうして教育した人材を社会的に吸収で

きるシステムが弱いのではないでしょうか。学生たちが社会に進出して日本で学んだことを発揮して働けるような環境作りが大事です。そういう環境が整っていないために、せっかく日本で勉強した学生が卒業後は母国に帰ってしまう。これはとても残念なことだと思います。

黒木●今回の30万人計画では、留学生のうち半分の人は日本に残って働けるような環境作りを進めることになっているようですが、確かに金さんの意見は重要ですね。

王正明●日本では何でも保証人が必要です。留学生が日本人の保証人を見つけるのはとても大変です。この制度を何とかしてほしいですね。

高●保証人という言い方も問題です。すごく責任があるように感じますので、留学生の場合は別の言い方にすれば少しは受け入れやすいのではないでしょうか。

王欣●留学生がもっと地域の活動に参加できるきっかけがあればいいのではないかと思います。例えば、私のいるハワイハウスの隣には小学校があります。外国人の留学生と小学生が交流できる機会があれば、私たちも地域貢献ができるし、日本人の生活にふれることができると思うのです。

高●政府が何かをする時はなかなか個人に届きません。個人同士をつなぐような制度を作ってほしいですね。

王欣●例えば、公的にそういう場を提供してくれて、そこで人と人のふれあいがあればとても有意義だと思います。そうしたつながりが実生活の中で進んでいけば、外国人と日本人の理解が深まっていって、留学生ももっと住みやすいと思うようになると思いますね。

高●ただ言葉だけではなくて本音をぶつけ合う場がほしいですね。

黒木●この4月に同志社大学は国際連携推進機構を改組し、留学生受け入れの環境と制度をきちんと整えていく、同時に受け入れだけでなく同志社の学生を海外に積極的に派遣していく、また先生方も海外へ出かけていって共同研究やシンポジウムを行っていこうとしています。同志社がそうした国際プログラムを展開していく場合に、どういう点を重視していくべきか、同志社の役割はどんな点にあるのかについて、みなさんの意見を聞いて考えたいのですが、同志社大学のいいところをあげるとするとどこだと思いますか。

バランスのとれた国際性

金●京田辺キャンパスは施設が整っていて、勉強以外にもいろんなことができます。それに同志社大学は留学生の人数自体は多くはないですが、いろんな国から来ていてバランスが取れているので、お互いの文化をわかり合えます。

中西●同志社大学のよさは、自由ということですね。私はドイツ語が好きで勉強しているのですが、自分が好きなことを勉強できる点がすごくいいと思います。

高●留学生のバランスが取れているというのは、確かにそうですね。沖縄国際大学にいた時もいろんな国の人がいてすごく楽しかったのですが、同志社にはもっといろんな国の人がいて国際的な環境の中で勉強できます。そして自由でもあります。自分が勉強しようと思えば、何でもできます。

王正明●今年、世界学生環境サミットというイベントがあり、そこで各国の留学生と日本の学生が環境問題について話し合い、意見を出し合ったのですが、こういうイベントが同志社主催で行われるところが素晴らしいと思います。

王欣●私の知っている限り、同志社大学の先生はみんな国際的な視野を持っています。いつも国際的な発想で物事を広い範囲で考えているような気がします。こういう点は同志社のいいところ、強みといっていいと思いますね。

黒木●最後になりますが、同志社大学の留学生として、残りの在学期間の中でやってみたいと思っていることがあれば教えてください。

中西●英語をうまく話したいという人が多いので、できるだけ多くの人と英語で話したいですね。私もドイツ語を勉強していて外国語で話したいという気持ちはよくわかりますから。

金●同志社に留学して友だちがたくさんできました。その中には私の影響で、韓国語を勉強したいとか、韓国の文化に興味を持っている友だちがたくさんいます。そういう人たちに韓国語を教えたり、実際に韓国に連れて行って直接韓国のことを知ってもらったりしたいと思っています。

王正明●私が今一番やりたいのは、同志社に留学した台湾人の先輩などと交流する機会がありませんので、ホームページを立ち上げてコミュニケーションをはかり、同志社に対する思いを深めていくことです。

王欣●奨学金をいただいていますから、自分の勉強をしっかりやっていくのは当然ですが、何かボランティアで日本の社会に貢献したいですね。

高●将来国に帰って自分の経験した日本のことを紹介する役割を果たしたいと思って同志社に来ているので、これから博士課程（後期）への進学を考えているのですが、今まで以上にいろんな経験を積みたいと思っています。能や狂言、日本舞踊など、時間が許される限り、いろんなことに接したい。そしてただ接するだけではなく、偏らずに正しく見分ける力を持った紹介者になれるように勉強していきたいと思っています。

黒木●きょうはみなさんのいろんな意見を聞いて、同志社の国際連携を推進していくための大きな力になったと思います。ありがとうございました。

B・S・クラークが同志社デビュー

クラーク記念館修復工事の竣工を祝して

本井康博（神学部教授）

① 見つかったB.S.クラークの肖像写真

謎だったクラーク

今出川キャンパスのランドマークは、クラーク記念館【写真②】。英語の正式名称は、バイロン・ストーン・クラーク・メモリアル・ホールです。

だが、不思議なことに、「クラークって誰」と聞かれて、正しく答えられる人は、学内で皆無です。これでは、「同志社のシンボル」が、泣きます。

建物の由来に関しては、「ブルックリンのクラーク夫妻が、亡き子息を記念して同志社に寄付した」程度の情報です。一階ホールの壁に、両親の肖像写真（⑤）が、それぞれ掲示されています。でも、肝心の「亡き子息」は、容貌にしろ、経歴にせよ、厚いベールに包まれたままです。タブレット（③）に「一八九一年一月に二十三歳で永眠。神の言葉を学ぶことを好んだ」とある以外は、まったくの闇の中です。

そこで、今春、記念館修復をきっかけに調べてみました。その結果、彼の略歴と肖像写真が入手できました。まずは、『ニューヨーク・タイムズ』（一八九一年一月一九日）の死亡記事です。

「バイロン・ストーン・クラーク。一月十七日、土曜日、ニュージャージー州プリンストンで。二十三歳。ニューヨーク州ブルックリン市のバイロン・W・クラークとヘレン・ストーン・クラークの子息。葬儀は身内で」。

② 竣工後のクラーク記念館

プリンストンの卒業生

プリンストンで亡くなっています。それも新島襄の永眠からちょうど一年と一週間後です。そこで、タブレットの文言から神学生かも、と推測して、プリンストン神学校に問い合わせました。空振りでした。

次に淡い期待をかけて、隣のプリンストン大学(当時はニュージャージー・カレッジ)に照会しました。図星でした。学内のマッド図書館アーキビスト、クリスチン・ターナーさんから写真二枚と略歴を送ってもらいました。

③ 記念館の由来を記したタブレット(クラーク記念館1Fホール)

卒業は一八八九年。ですから、卒業一年半後の永眠、でした。新島と同じく「理学士」で、教派も会衆派ですから、奇しき一致です。長老派系の大学だけに、クラス(二十二名)の大半は、長老派でなければ、監督派ですから。

両親の教派も会衆派でしょうか。もしそうなら、クラークの両親が、息子を追悼する神学館建築費として、長老派ではなく会衆派のミッション(アメリカン・ボード)に一万ドルを寄付した経緯も解明できそうです。

さらに同志社が明治学院教員(長老派です)のH・M・ランディスの紹介でドイツ人設計士(R・ゼール)を指名した謎も解けそうです。ランディスは、一八九〇年に今の明治学院記念館を設計したと言われている宣教師です。プリンストン大学(一八八五年卒)とプリンストン神学校(一八八八年卒)で学んでおります。

つまり、彼はクラークの先輩に当たり、在籍時期も一部、重なります。隣接する小さな学園同志ですから、当然、相互に面識があったはずです。

④ B.S.クラーク

同志社デビュー

次に肖像写真ですが、まずニューヨーク市ブロードウェイ八四一の著名な写真屋で撮影したのが一枚①。撮影時期は大学入学前後でしょうか。写真からは窺いにくいですが、身長は百八十センチ、体重は八十余キロ、胸囲は一メートルという堂々たる体躯です。

二枚目(④)は、なんと永眠十八日前(一八九〇年十二月三十一日)の撮影です。とてもやつれた病人には見えません。なぜなら急死です。死因は、なんと急性腹膜炎、新島とまったく同じです。違いは、クラークはひとまず手術を受けたが、手遅れであったのに対し、新島はモルヒネで激痛を和らげるしか療法がありませんでした。

写真には、生没年月日が添えられています。一八六八年一月十六日に生まれ、一八九一年一月十七日の午前三時に死去しています。

ようやく本命の「同志社デビュー」です。だから、彼の肖像写真は額装して、ぜひともクラーク記念館に架けてもらいたいと願っています。それも、両親の二枚の写真(⑤)に挟まれて、です。

そうなれば、晴れて両親との「リユニオン」が果たせます。再会の場は、これ以上はないスポットです。自分の名前がついた縁(ゆかり)の建物ですから。百十七年振りに「親子水いらず」の団欒を、ここ同志社で心行くまで楽しんでもらいたいものです。

⑤ クラークの両親の肖像写真

2007年度 大学決算について

財務部 経理課

2007年度大学決算は、2008年5月8日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月24日開催の法人理事会で承認されました。

2007年度は、教育研究条件の整備充実を図るための事業として、「全学共通教養教育センター」や「日本語・日本文化教育センター」の設置、情報環境整備などを重点的に実施したほか、文部科学省が実施する「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援」に係るプログラムとして新たに採択された、「学生と教員の幸せな出会いをめざす導入教育」(商学部)や「アクションプラン主導型発見的キャリア教育」(キャリアセンター)に取り組みました。また、学生支援事業では、大学教育改革の支援プログラム「地域コミュニティによる学生支援方策」(学生支援センター)を実施したほか、被災者に対する学費等減免措置の実施、障がい学生支援制度の充実に取り組みました。そのほか、入学試験会場の増設、「キリスト教主義学校の連携ネットワーク」の構築、「倫理審査室」の設置、「同志社エコプロジェクト」発足などを実現しました。さらに、今出川キャンパスには、2009年度に神学部、社会学部の1・2年次生を、2013年度に文学部、法学部、経済学部、商学部の1・2年次生を移し、文系学部の一貫教育体制の実現に取り組む一方、京田辺キャンパスを身体・生命、先端技術、情報を中心とする統合的・先端的最高水準の教育研究拠点とするキャンパス再編計画を核とする、大学将来構想の策定を進めました。

建設事業では、2008年度開設の生命医科学部・生命医科学研究科およびスポーツ健康科学部の教育研究の拠点となる「医心館」「磐上館」の建設のほか、ラグビー場人工芝敷設や陸上競技場全天候化などの体育施設整備、食堂の一部改修など、主として京田辺キャンパスの整備を重点的に実施しました。今出川キャンパスでは、5年の歳月をかけたクラーク記念館修復事業が完了し、館内教室等の利用が可能になりました。

上記のとおり、2007年度は、未来に向けた教育環境の整備に大きく前進すべく、新設学部・研究科の教育・研究の場となる施設設備の整備をはじめとして、様々な教育改革施策に必要な投資を積極的に行いました。その一方で、寄付金や補助金、事業収入など外部資金の獲得への継続的な取り組みに加え、入学者の安定的確保や入試志願者数の伸びにより、予算段階に比べると大きく収支バランスの改善を図ることができました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は273億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は76%と大きな比重を占めています。

手数料は19億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は6億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は35億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助14億円、特別補助16億円を受入れています。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金としてハイテク設備、研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに特色ＧＰや現代ＧＰといった大学教育改革プログラムを実施するための大学改革推進等補助金などを受入れました。

資産運用収入は7億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は6億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、補助活動収入および付属事業収入が主なものです。

雑収入は8億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は15億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は、24億円で、医心館および磐上館の建築資金としての教学施設整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は2億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は**400億円**となり、手数料、事業収入などの増収により予算に対して10億円の増加となりました。

支出の部

人件費は174億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は49%となりました。教員充実計画による教員増員などにより、前年度に比べて4%増加しました。

教育研究経費は126億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は14億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金は10億円で、高等学校への法人内資金調達額が主なものです。

施設関係支出は52億円で、医心館および磐上館の整備事業、ラグビー場人工芝敷設、陸上競技場全天候化、京田辺キャンパス食堂一部改修、クラーク記念館の保存修理事業などによる支出です。

設備関係支出は23億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。2008年度開設の生命医科学部・生命医科学研究科およびスポーツ健康科学部で使用する設備購入に伴い、例年と比較して多額の執行がありました。

借入金等返済支出は3億円で、償還計画に基づき計画通り返済しました。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金12億円、情報基盤整備資金3億円の合計15億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、過年度から保有している準備金の一部を基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は14億円で、中学校移転のための財政支援の繰入額10億円のほか、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は**435億円**で、予算に対して5億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額**は**35億円**の支出超過となり、帰属収入の増加などにより、予算に対して15億円改善しました。しかしながら、累積消費収支差額としては**238億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して3億円減少し、当年度末では**16億円**となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は233億円でしたが、当年度末は21億円増加して**254億円**となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

■収支計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで　　（単位：千円）

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	27,283,350	27,297,104	△ 13,754
手数料	1,559,100	1,894,015	△ 334,915
寄付金	487,100	637,728	△ 150,628
補助金	3,466,330	3,463,646	2,684
資産運用収入	527,570	649,686	△ 122,116
資産売却差額	35,620	40,721	△ 5,101
事業収入	453,010	629,255	△ 176,245
雑収入	818,870	785,292	33,578
繰出金	286,660	286,200	460
分担金	123,950	123,950	0
(帰属収入合計)	(35,041,560)	(35,807,597)	(△ 766,037)
当期固定資産除却額	1,419,920	1,481,037	△ 61,117
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	0	82,492	△ 82,492
第2号基本金取崩額	2,400,570	2,400,570	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(3,820,490)	(3,964,099)	(△ 143,609)
特定支出準備金取崩額	166,690	239,736	△ 73,046
[収入の部合計]	[39,028,740]	[40,011,432]	[△ 982,692]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	17,618,420	17,441,358	177,062
教育研究経費	12,449,270	12,565,842	△ 116,572
消耗品費他	9,120,250	9,238,855	△ 118,605
減価償却額	3,329,020	3,326,987	2,033
管理経費	1,367,890	1,366,948	942
消耗品費他	1,297,930	1,297,904	26
減価償却額	69,960	69,044	916
借入金等利息	59,100	59,104	△ 4
資産処分差額	46,700	87,131	△ 40,431
徴収不能引当金繰入額	58,150	50,809	7,341
徴収不能額	0	9,913	△ 9,913
繰入金	1,011,300	1,042,361	△ 31,061
予備費	105,000	―	105,000
(消費支出合計)	(32,715,830)	(32,623,466)	(92,364)
施設関係支出	5,413,590	5,212,865	200,725
設備関係支出	2,890,450	2,277,621	612,829
当期固定資産受贈額	0	129,195	△ 129,195
借入金等返済支出	305,250	305,250	0
前期末未払金	77,270	77,274	△ 4
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	0	2,000	△ 2,000
第4号基本金組入額	37,300	37,300	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(10,223,860)	(9,541,505)	(682,355)
特定支出準備金繰入額	1,070,720	1,362,673	△ 291,953
[支出の部合計]	[44,010,410]	[43,527,644]	[482,766]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(△ 4,981,670)	(△ 3,516,212)	(―)
消費支出準備金繰入額	0	0	―
消費支出準備金取崩額	2,529,720	1,045,477	―
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 2,451,950]	[△ 2,470,735]	[―]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 21,354,460]	[△ 21,354,465]	[―]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 23,806,410]	[△ 23,825,200]	[―]

借入金			
科目	予算	決算	差異
[前年度末借入金残高]	[△ 1,905,530]	[△ 1,905,530]	[―]
当年度借入額	0	0	―
当年度返済額	305,250	305,250	―
[当年度末借入金残高]	[△ 1,600,280]	[△ 1,600,280]	[―]

用語解説

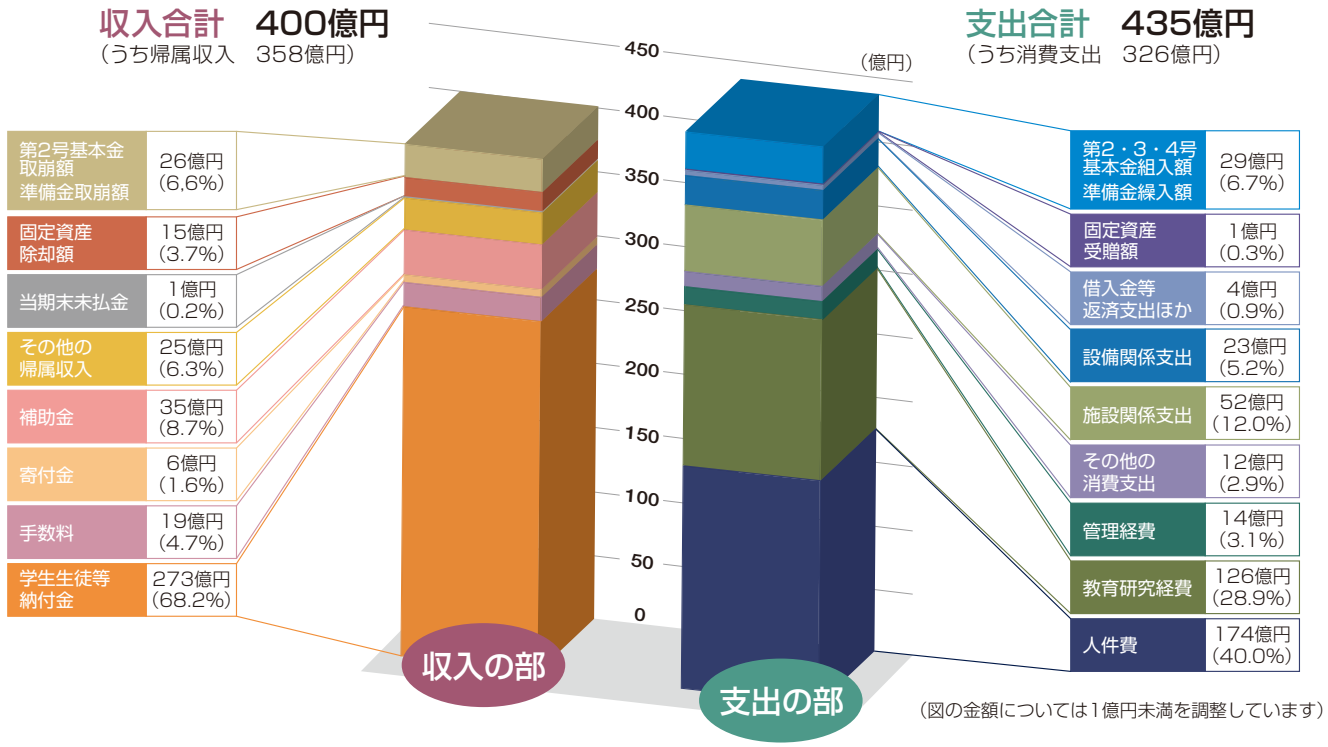
● 収支計算書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているので、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

● 基本金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産（施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産）の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。
第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

■収支構成図



（図の金額については1億円未満を調整しています）

ライフラインの要、電気に関する学際的・総合的研究拠点

インフラストラクチャー研究センター

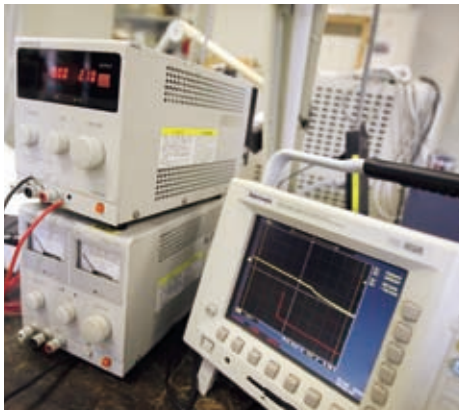
インフラストラクチャー＝経済活動や社会生活を維持し発展させるための基盤構造。特に市民生活を維持するのに必須の設備であるライフラインの中核となるのが、電気・電力である。現代社会にとって、電気エネルギーの必要性は、空気や水にも等しい。不可欠な存在である電気が常に使え、それを核とする現代社会のライフラインが正常に機能することを目標に、研究や活動を行う基盤として、2007年9月、同志社大学に「インフラストラクチャー研究センター」（IRC）が設立された。同センターのセンター長であり、世界における電気・電力部門の研究を主導する雨谷昭弘・理工学部教授に、センター設立の背景や担うべき役割、さらに、その成果としての文部科学省大学院教育支援プログラム「電力・通信インフラ研究者・技術者育成課程」（インフラGP）について伺った。

インフラストラクチャーと言えば、ライフラインの水、通信、鉄道などの交通網、ガス、もう1つが電力ですが、水も通信、鉄道も電気がなければ動かない。自動車も制御系は電気がないと機能しません。したがって、ライフラインの中核に位置するのが電気・電力なのです。私自身は、鉄道やビル、家庭内の電気製品に至るまで、あらゆる電気設備の異常な状態に起因する過渡的な電気現象の解析・解明が研究課題であり、さらに電気・電子機器が発生する電磁波による障害の研究、それらに必要となるコンピューターシミュレーションのためのソフトウェアの開発も進めています。

インフラストラクチャー研究センター（IRC）の設立に当たっては、1つには電気電子回路の汎用解析プログラムであるEMTPの世界的拠点として機能する組織の必要性がありました。1966年に米国政府エネルギー省ボンネビル電力庁（BPA）で開発が進められ、世界的な電力系統解析の標準プログラムとなっているEMTPは、電気電子回路の膨大なシステムを数値シミュレーションで簡単に過渡的な特性が出せるというものです。私は1976年～81年の間、BPAでEMTP開発プロジェクトの主たるメンバーとして、その開発に当たってきました。また、1978年には、日本のEMTPのユーザーグループ組織として、日本EMTP委員会を設立し、2001年までの23年間委員長を務めました。

この委員会は現在86社の企業会員と64の大学公的研究機関のメンバーで構成され、EMTPジャーナルを年1回発行するほか、EMTPルールブック、セオリーブック、計算例題集の刊行、ホームページの運営などを行っています。ところが、日本EMTP委員会およびEMTPジャーナルは、国際的に認知された組織、刊行物であるにもかかわらず、従来、私と現在の委員長である長岡直人教授（現・副センター長）の個人的組織に過ぎなかった。本部事務局も私の研究室で、国内で公的に認知された組織ではありませんでした。そこで、同志社大学の研究活動としてセンターを立ち上げ、EMTPの世界的な拠点とすることにしたのです。

もう1つ、パリに本部のある電気技術関連国際規格IECへの諮問機関であるCIGRE（国際大電力技術会議）。IRCには、私自身が委員長でもある、CIGREのワーキンググループの活動母体としての役割もあります。電力・建築設備の情報通信制御系における電磁環境問題（EMC）は重要な課題であり、CIGRE　EMCガイドはその国際的ガイドブックですが、現在、改訂作業が進行中です。私は改訂作業委員会の委員長代行、本代表委員を務めるとともに、国内の作業会（TF）を立ち上げ、電力中央研究所、東京電力、東芝をメンバーとして活動しています。IRCはそのTF事務局でもあります。


電圧・電流自動計測装置

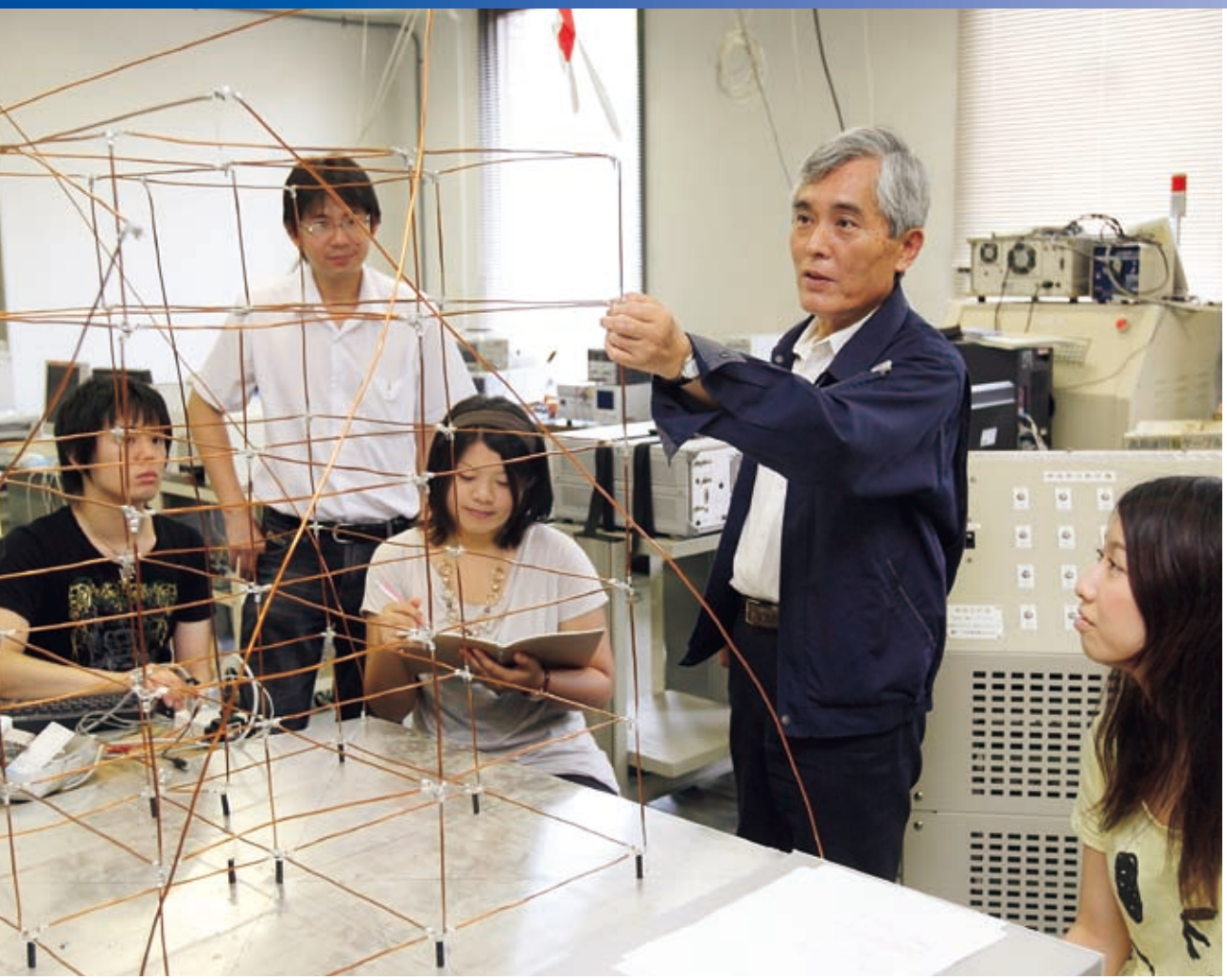
EMCについては、私が委員長となり、2003年から国内の電力設備EMC関連規格の検討を始め、05年に「発電所における低圧制御回路試験電圧標準」を制定しました。この規格の次の段階として、電力設備に関する低圧制御回路サージの調査専門委員会を電気学会内に立ち上げ、07年4月から活動を開始しています。同委員会は諸外国との共同作業および最先端にある日本のEMC関連の技術と経験を諸外国へ提供する必要がありますが、残念ながら電気学会では対応しがたい。IRCは、そうした調査専門委員会の対外国活動も、活動の一環としています。

また、これまで電力系統解析研究室には、海外から客員研究員、博士課程インターンシップ、博士・修士課程インターンシップなど

雨谷 昭弘【理工学部教授】

の要望が多数寄せられていますが、研究室レベルでそのすべてに対応するのは限界がありました。そうした海外研究者の受け入れを行い、研究者の交流拠点となることも、IRCの担う役割の1つです。

さらに、電力関連分野で最も質の高い国際会議として知られているIPSTを、09年6月3日～7日の間、アジアで初めて同志社大学今出川校地で開催することになっています。この「IPST2009」の実施母体としても、IRCの設立は必要でした。



インテリジェントビル（縮小モデル）での雷サージ実験

IRCにはまた、文部科学省から大型の外部資金を得るという目的があります。それをベースにして大学院の改革を進めるという意味で、大きな成果と言えるのが、文部科学省大学院教育支援プログラム「電力・通信インフラ研究者・技術者育成課程」（インフラGP）。

この教育プログラムでは、公共インフラとしての電力系統・通信系統の基本理論を理解し、主義・主張・国境を越えて社会財産を維持し、国民に奉仕できる精神力と技術力を持った技術者・研究者の育成を目指しています。これまでの理工系大学院教育は、ともすれば専門知識の供与や技術の付与のみを重視してきました。しかし、組織的に問題を特定し、解決手段を導き出さなくてはならない電力・通信インフラ領域で要求されるのは、現状に即したプレゼンテーション能力、コミュニケーションスキル、課題設定力、問題解決力です。インフラGPでは、専門能力の育成にとどまらず、そうした実践的な能力を養います。

中でも特に目玉となるのが、Advanced Course of Infrastructure Engineering（インフラストラクチャー工学特論）。海外から招いた先生方に、現地のインフラストラクチャーの状況を英語で講義してもらうものです。07年度はイラン、韓国、イギリス、中国、ポルトガル、ポーランド、カナダの7カ国から、7人の教授を招聘しました。

もう1つは、海外インターンシップです。昨年度は9人がアメリカのラトゥガーズ大学とUSツバキ、英国のウエスト・オブ・イングランド大学、イタリアのボローニャ大学、ポルトガルのEPDという電力会社、韓国のソウル大学にも行きました。期間は4週間。帰国後には、その成果を全員に発表してもらいます。

さらに、国際学生会議を開催しようということで、第一段階として学内で英語によるセミナーを開いています。09年度に開催するIPSTに向け、その準備運動として今年10月、International Workshop on High Voltage Engineering（IWHV2008）という国際会議を開き、その中でインターナショナル・スチューデント・セッション（ISS）を設けます。同志社大学以外の国内の大学も参加しますが、海外からは香港、タイ、韓国、カナダ、アメリカ、イギリス、フィンランド、ポルトガル、イタリアからも参加を予定しています。

インフラストラクチャー工学は、従来、土木工学の分野に含まれており、それはあくまで土木系、ビルディングでのインフラでした。そうではなく電気・電力はもちろん、ガス、水道、通信など幅広く理論を学び、実践的能力を養うのは、このインフラGPが初めてです。

07年7月16日に発生した新潟県中越沖地震では、東京電力柏崎刈羽原子力発電所が火災を起こし、緊急停止しました。インフラの中核としての電力の重要性が、改めて強く認識された出来事でした。私たちはそうした地震によって大きなダメージを受けたインフラの復旧に際して、すぐに的確な能力を発揮できるエキスパートを、このインフラGPを通して育てていきたいと考えています。

キャンパスニュース CAMPUS NEWS

世界学生環境サミットin京都、本学を中心に開催

6月22日、世界14カ国19大学約70人の学生たちが本学に集まった「世界学生環境サミットin京都」は、かけがえのない地球環境を守り、気候変動を防ぐため「保全する(Conserve)」「創造する(Create)」「協力する(Collaborate)」の"3Cの原則"を提案するとともに、世界学生環境ネットワークを創設して環境問題解決のために行動する―という趣旨の学生意見を採択して3日間の日程を終えた。意見書は環境省を通じ、7月7～9日に開催された北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)にて、各国首脳に届けられた。

学生環境サミットは、京都議定書が締結された古都に世界各地の学生が集まり、社会の持続可能な発展を目指して語り合い、次世代を担う学生から新しい世界のあり方を提案したうえ、その実現に向けて一人ひとりが主体的に行動することを最終目標に、本学の学生たちが中心となって約半年間に渡って準備を積み重ねてきた。

20日に寒梅館で開会式が行われ、八田英二学長が「環境破壊は世界的な問題。国別の利害やしがらみにとらわれず、自由に語り合っていただきたい」と歓迎の挨拶を述べた後、上杉祐都実行委員長(工学部環境システム学科3年次生)が「みんなが一つになって議論し、笑顔で意見書を採択したい」と宣言した。このあと3日間にわたり本学の各キャンパスを各会場にして三つの分科会で討論を重ね、それぞれの全体会で議論を集約し、意見書に反映させた。

意見書には、前述の"3Cの原則"を基本として▽エネルギー需要削減のための常時観測システム▽低炭素の代替エネルギー社会への移行▽気候変動を防ぐフレームワークを提供する国際的な統治体の設立なども盛り込まれ、松田雄高議長(法学部政治学科3年次生)が読み上げ全会一致で採択され、各国代表が署名した。意見書を託された環境省地球環境局の南川秀樹局長は「洞爺湖で各国首脳に必ず手渡します」と約束した。採択式を前に挨拶した京都府の山田啓二知事は「10年前の京都議定書で世界は団結したと思ったが、まだ道半ば。京都から若いみなさんが新しい動きを起こしてほしい」と呼びかけた。引き続き基調講演に登壇した小池百合子元環境相は「持続可能な社会に向けて地球規模の戦略が求められている。代替エネルギーも研究開発も含めて総力戦。夢は遠からず現実になる。今は嘘だと思われていることこそ取り組むべきだ」と学生たちを激励した。次いで学生環境サミットの準備段階から学生たちの相談に乗ってきた福山哲郎参院議員(法学部法律学科1986年卒)が「環境破壊という点で全世界は同じ境遇にある。差異のある責任の中で共通の枠組みをつくるという学生たちの熱意が嬉しい」と講評した。最後に上杉議長が「明るい未来に一歩前進する機会になった。この成果を自信にして世界に発信し続けたい」と閉会の辞を述べた。

意見書にサインし挨拶する各大学代表者

インターナショナル・ネゴシエーション・コンペティションにて同志社大学チーム入賞

7月7日(月)～11日(金)にわたってロンドンで開催された第9回インターナショナル・ネゴシエーション・コンペティション(International Negotiation Competition for Law Students)において、日本代表として参加した田中祐太朗さん(法学研究科私法学専攻2年次生)と後藤瑠美さん(法学部法律学科4年次生)のチームが2位に入賞しました。

今回のコンペティションは、国内大会を勝ち進んできた14カ国の16チームで争われました。本学チームは昨年度の国内大会英語の部において最高得点をマークし、日本代表チームとして大会に推薦されました。大会では、それぞれ問題の異なる3ラウンドを、イングランド、デンマーク、アイルランドの代表チームを

デンマークチームとの対戦の様子

模擬交渉の相手として対戦。本学チームの友好的で冷静な交渉スタイルは、各ラウンドの審査員に大変高く評価されました。

今回の世界大会2位という成績は、日本人の交渉力を世界にアピールする良い機会になりました。そして何よりも、本学の学生が世界を相手に互角以上に渡り合うことができたことを本当に嬉しく思っています。来年こそは本学チームがワールドチャンピオンになるという、そんな夢もふくらみます。

（法学部 岡田幸宏教授）

大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）に採択

平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援（交流プログラム開発型））に、本学が申請した「外国語教育の全学的質保証と国際交流促進」が採択された。

この国際化加速プログラム「国際共同・連携支援」は、各大学の国際化を目指した戦略・構想に基づき、教育内容・水準の向上等、我が国の高等教育の国際競争力の強化や国際的通用性・共通性の向上を図る取り組みを支援するものである。今回採択された「交流プログラム開発型」は、他大学のモデルと成りうる特色ある大学間交流プログラムの開発実施を支援するもので、申請72件中13件が採択され、私立大学の採択は本学を含め3件のみであった。

申請プログラムの具体的な内容は、次の通りである。

現在本学では、学術交流協定に基づく派遣留学に加え、セメスター海外英語研修プログラム、サマープログラム等が正課科目として提供されている。それらに加えてサマースクール、スプリングスクールとして、国際センターが提供する正課外科目としての短期集中語学研修プログラムが存在する。

本申請プログラムは、本学の教育理念の一つである「国際主義」をさらに充実すべく、先述の多様な留学プログラムを体系的に整備し、2009年度から全学共通教養教育科目の「国際教養科目群」の正課科目とすることを目指すものである。

特に、現在国際センターが提供しているサマースクール等を正課科目とするにあたり、言語文化教育研究センターの教員が現地に赴き、プログラム内容を精査し、正課科目としての質保証を行うと共に、参加者には事前・事後学習を課す、より充実した外国語研修プログラムとして体系化する計画である。

なお、僅か13件の採択という厳しい審査を経て採択されたわけであるが、その理由は、本プログラム名称が示すとおり、国際化の基本方針を策定する国際センター（Plan）、外国語科目の実施主体である言語文化教育研究センター（Do）、全学の教育効果を恒常的に点検することを任務とする教育開発センター（Check）、建学の精神の教育的具現化を使命とする全学共通教養教育センター（Action）という四つの組織が一丸となることによって、PDCAサイクルによる全学的質保証体制を構築したことが高く評価されたと自負している。

（国際課）

本学卒業生の北京オリンピックでの活躍について

陸上男子400mリレーで銅メダルを獲得した朝原宣治選手（商学部95年卒）

8月8日に開幕した北京オリンピックに、本学の卒業生7名が出場した。

フェンシング男子フルーレ個人では、体育会フェンシング部OBの太田雄貴選手（商学部08年卒）が見事、銀メダルに輝いた。フェンシング競技で日本人のメダル獲得は史上初の快挙であり、日本のフェンシング史を塗り替えた。

陸上競技では、体育会陸上競技部OGの早狩実紀選手（商学部95年卒）が、女子3000m障害の予選で残念ながら敗退した。また、同じくOBの朝原宣治選手（商学部95年卒）は、男子100m2次予選で敗退し、決勝進出は叶わなかったものの、男子400mリレーのアンカーを務め、3位に入り、悲願のメダルを手にした。トラック種目で日本男子がメダルを獲得したのはオリンピック史上初の偉業である。

セーリング470級では、体育会ヨット部OBの松永鉄也選手（商学部03年卒）と上野太郎選手（商学部03年卒）のペアが決勝に進み、7位入賞を果たした。

アーチェリー女子では、体育会アーチェリー部OGの林勇気選手（商学部07年卒）が、個人1回戦では同点の末惜しくも敗退したが、女子団体では準々決勝まで進み、8位入賞に大きく貢献した。

野球では、体育会硬式野球部OBの宮本慎也選手（商学部94年卒、東京ヤクルトスワローズ所属）が、星野JAPANのキャプテンを務め、決勝トーナメントに進んだが、宿敵である韓国とアメリカに破れ、残念ながらメダル獲得には至らなかった。

なお、10月26日（日）10時～、今出川キャンパス明徳館M21教室にて、フェンシング男子フルーレで銀メダルを獲得した太田雄貴選手と陸上男子400mリレーで銅メダルを獲得した朝原宣治選手を本学に招いて、「スポーツ講演会メダリスト対談」を開催する予定である。

※試合結果、北京オリンピック報告会などの詳細は「同志社スポーツオフィシャルウェブサイト」をご覧ください。

http://www.doshisha-sports.com

（スポーツ支援課）

「同志社大学ホームカミングデー2008」のご案内

11月9日(日)今出川校地にて、9回目の「同志社大学ホームカミングデー2008」を開催します。卒業生を思い出溢れる今出川キャンパスに迎え、旧師や旧友との再会、現役学生の活動を通して母校との「絆」をより深めていただく『精神(こころ)に帰る一日』となることを願っています。

【日時】11月9日(日)　10時～16時45分

【場所】今出川キャンパス

【主なプログラム】

●**開会式** 10：00 同志社礼拝堂

礼拝形式により実施(「同志社創立133周年記念リユニオン」と共催)

●**記念撮影** 11：00 クラーク記念館前広場写真を頒布。

●**講演会** 11：20～12：00

演題「同志社大学の新たな鼓動」　八田 英二 学長

●**卒業生交流レセプション(会費制)**

12：30～13：45

卒業生・教職員(含退職者)が一堂に会しての交流・歓談の場(「同志社創立133周年記念リユニオン」との共催)

●**ゼミ・クラス・クラブなどの集会**

教室を開放。ただし、事前申し込みが必要

●**アトラクション**

・野点

・卒業生・在学生の音楽団体による競演

・人力車友之会の「人力車」によるキャンパス散策

・応援団の演舞・演奏

・学生による模擬店

●**展示**

・"Doshisha College Song"誕生100年

・「躍進する同志社の今」…学部・学科、大学院、入試関係、リエゾンオフィス、小学校など

・「思い出の学生生活・学園風景」…懐かしの写真・映画などの上映・同志社グッズなど

●**施設公開**　同志社礼拝堂、クラーク記念館、Neesima Room、図書館、寒梅館、新島旧邸ほか

●**キャンパスツアー**　今出川・京田辺の両キャンパスにて実施

●閉会式 16：30 明徳館前広場

その他　同志社グッズ、新島襄関連書籍等の販売、明徳館地下学生食堂、購買部、寒梅館レストランも営業

【同日開催行事】

●**創立133周年記念リユニオン**

(法人、校友会、同窓会)

●**NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク総会**(リエゾンオフィス)

●**政法会第15回総会**(政法会)

●**理工学部同窓会リユニオン2008**

(理工学部同窓会)

●**総政会講演会**

(総合政策科学研究科同窓会)

プログラムの詳細は決まり次第ホームページでお知らせします。

都合により、プログラムを変更させていただく場合があります。あらかじめご了承願います。

(校友課)

オープンキャンパス2008開催

7月20日(日)に京田辺キャンパス、7月27日(日)に今出川キャンパスで開催されたオープンキャンパスは、両日合わせて約11000人が来場する盛況ぶりであった。

各相談ブースや説明会に多くの受験生や保護者が列を作り、熱心に聞き入る姿が見られた。また模擬授業では大学の「学び」を体験し、教員の話に興味深い表情を浮かべる人で賑わった。その他にも体験コーナーや見学ツアーなど、同志社の魅力が詰まったイベントが催された。

炎天下の中、参加者も本学スタッフも汗をかきながら暑く熱い時間を過ごし、非常に実りある2日間となった。

お兄さんお姉さんと一緒に遊ぼう「寒梅館夏まつり'08」

8月23日(土)、今出川校地学生支援課主催のもと「寒梅館夏まつり'08」を開催した。公認団体を中心として、学生支援センター登録団体、一般学生の有志など14団体約120人の学生がスタッフとして集まり、クラブ活動で日頃培っている独自のスキルを生かしたイベントを実施。また、昨年採択された学生支援GP「地域コミュニティによる学生支援方策～京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト」の一環として"でまち家"(寺町通今出川通下ル)でも同時開催した。

参加した小学生は、珍しい和楽器や人力俥などが体験できるとあって、目を輝かせながら挑戦。学生スタッフは、奔放に動き回る小学生に最初はとまどいながらも、頼りにされ感謝される喜びを実感していた。当日は雨模様であったにもかかわらず、小学生とその保護者200人以上の参加があり、子どもたちの歓声に満ちた2時間となった。

大学生と地域との接点を増やすことは、子どもたちだけでなく、大学生の成長にも繋がる。今後も、地域の方々に同志社大学があってよかったと思われる催しを企画したい。

(学生支援課)

CAMPUS NEWS

2008年度卒業式・学位授与式

卒業式 学位授与式（学部）（大学院） 留学生別科修了式			
京田辺校地 デイヴィス記念館	栄光館		場所
3月22日（日）	3月21日（土）	3月20日（金・祝）	日時
13時	15時	15時	
文化情報学部・文化情報学研究科 工学部・工学研究科 生命医科学研究科	商学部・商学研究科	文学部・文学研究科 法学部・法学研究科 神学部・神学研究科 社会学部・社会学研究科 留学生別科	学部・研究科
	12時30分	12時30分	
	経済学部・経済学研究科 司法研究科 ビジネス研究科		
	10時	10時	
	政策学部 アメリカ研究科 総合政策科学研究科		

2009年度入学式

入学式（大学院）	入学式（日本語・日本文化教育センター・留学生別科）	入学式	
栄光館	神学館 礼拝堂	京田辺校地 デイヴィス記念館	場所
4月3日（金）	4月2日（木）	4月1日（水）	日時
10時	16時30分	14時	
全研究科	日本語・日本文化教育センター 留学生別科	神学部 商学部 理工学部 生命医科学部	学部・研究科
		12時	
		法学部 経済学部 スポーツ健康科学部	
		10時	
		文学部 社会学部 政策学部 文化情報学部 心理学部	

～卒業生の新刊図書～

澤田 瞳子さん（2003年文学研究科前期課程修了）

「京都はんなり暮し」
徳間文庫 552円（税別）

本学教職員の執筆図書の紹介 総合情報センター調べ（価格は税別）

関西を創造する
佐伯 順子 他 多数執筆 和泉書院 3000円

東アジア資本主義史論Ⅱ
福岡 正章 他 多数執筆 ミネルヴァ書房 3500円

もっと知りたい曾我蕭白
狩野 博幸 著 東京美術 1600円

紫式部日記の新研究
廣田 収 他 多数執筆 新典社 12800円

グローバル化時代のブラジルの実像と未来
布留川 正博 他 多数執筆 行路社 2500円

日本のソーシャルワーク研究・教育・実践の60年
黒木 保博 他 多数執筆 相川書房 4000円

『テンペスト』受容研究
勝山 貴之 他 多数執筆 福岡コロニー

紫式部集大成：実践女子大学本・瑞光寺本・陽明文庫本
廣田 収 他 多数執筆 笠間書院 15000円

古事記を読む
辰巳 和弘 他 多数執筆 吉川弘文館 2800円

分別される生命
川越 修 服部 伸 柿本 昭人 他 多数執筆
法政大学出版局 3500円

生命というリスク
川越 修 他 多数執筆 法政大学出版局 3400円

文化の力
青木 貞茂 著 NTT出版株式会社 1600円

新民事訴訟法講義
福永 有利 他 多数執筆 有斐閣 4600円

放電プラズマ工学
行村 建 他 多数執筆 オーム社 3200円

非線形波動の古典解析
大宮 真弓 著 森北出版 3800円

朝鮮近代の歴史民族誌
板垣 竜太 著 明石書店 6000円

経営組織心理学
藤本 哲史 他 多数執筆
ナカニシヤ出版 3200円

ランドマーク商品の研究3
石川 健次郎 川満 直樹 同文舘出版 3300円

新訂 心理学研究法
岡市 広成 他 多数執筆
放送大学教育振興会 2300円

教育の社会史
沖田 行司 他 多数執筆
放送大学教育振興会 2600円

親と子の悩み解決のための21世紀型ナビゲーション
真銅 正宏 他 多数執筆 ポプラ社 1200円

メディア「凶乱」
浅野 健一 著 評論社 2200円

分権時代の地方自治
今川 晃 他 多数執筆 三省堂 2400円

マクロ経済学の視点
清川 義友 北川 雅章 新関 三季代 東良 彰
八千代出版 3045円

インタラクティブ・エコノミクス
篠原 総一 西村 理 他 多数執筆
有斐閣 3700円

日本の会計士監査
百合野 正博 著 森山書店 2800円

政治腐敗からの再生
瀬川 晃 梅津 實 戒能 通弘 浅野 亮 村田 晃嗣
川崎 友巳 森 裕城 松尾 健一 他
成文堂 3300円

同志社教会創立120年記念誌
本井 康博 他 多数執筆
日本キリスト教団同志社教会

科学と人文系文化のクロスロード
山形 頼洋 他 多数執筆 萌書房 2000円

社会と感情
山形 頼洋 他 多数執筆 萌書房 2000円

源平盛衰記絵巻
狩野 博幸 他 青幻舎 28000円

女女格差
橘木 俊詔 著 東洋経済新報社 1800円

経済マイスターによる知力講座
橘木 俊詔 他 多数執筆
日経広告研究所 1300円

事例研究行政法
金子 正史 占部 裕典 他 多数執筆
日本評論社 3500円

写真空間1
清水穣 他 多数執筆 青弓社 2000円

歴史・思想からみた現代政治
出原 政雄 法律文化社 2900円

観光・旅行用語辞典
井口 貢 他 多数執筆 ミネルヴァ書房 2500円

ドイツ法入門
Tens(Peter) MARUTSCHKE 他 多数執筆
有斐閣 2400円

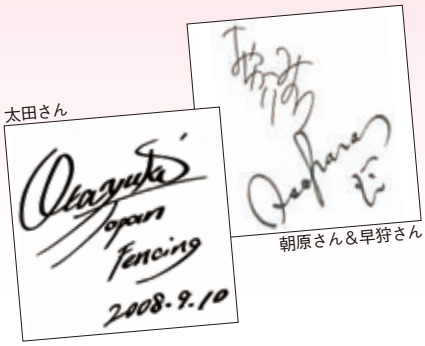
アメリカ 自由の物語(上)
肥後本 芳男 他 多数執筆 岩波書店 3800円

歴史と責任
板垣 竜太 他 多数執筆 青弓社 2800円

上場会社法入門
森田 章 著 有斐閣 3000円

Present for you

北京オリンピック出場の本学卒業生 サイン色紙プレゼント



太田さん

朝原さん＆早狩さん

本学卒業生の朝原宣治さん（1995年商卒、現・総合政策科学研究科生）、早狩実紀さん（1995年商卒）、太田雄貴さん（2008年商卒）は北京オリンピックに出場し、朝原さんが男子400mリレーで銅メダル、太田さんがフェンシング男子フルーレ個人で銀メダルを獲得するなど活躍されました。来校の際いただいたサインを、抽選のうえそれぞれ5名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、ハガキかE-mailで、住所、氏名、学部（卒業生の方は出身学部と卒業年）、One Purposeの感想、どちらのサイン（朝原さん＆早狩さん、もしくは太田さん）をご希望か明記の上、2008年11月20日（消印有効）までに広報課にご応募ください。当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

※広報課の連絡先は裏表紙に記載しています。

※収集した個人情報は、色紙送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用します。

持続可能な未来の社会に向けて

原油価格が高騰し、光熱費やクルマの燃料代、食費など、暮らしへの影響が顕著になってきている。いままで当たり前のように思われていた「スーパーへ行けば、何でも安く揃う」というライフスタイルに少しずつほころびができ始めた。こうした状況はいよいよ根本的に私たちの暮らしのあり方、社会のあり方を見直していくべき時期に来ているというサインではないだろうか。

しかし「ピンチはチャンス」と考えれば、これまでどっぷりと浸かってきた石油文明から抜け出し、持続可能な社会経済システムへと積極的に移行していく好機だととらえることもできる。ガスや電気、ガソリンの料金が高くなれば、必然的に省エネルギーと自然エネルギーの導入に向かうことになり、クルマへの依存も考え直さなければならなくなる。重油を焚く温室栽培の野菜や果物、フードマイレージの高い食料は、コスト高になりビジネスそのものが引き合わなくなるだろう。つまり食料は地元産のもの、旬のものを中心に調達するようになってくる。また家計の自衛手段として、コンポストで堆肥をつくり家庭菜園で自給をしたり、暖房には薪や炭も復権していくことだろう。このような「しぶとく生きる」知恵の共有と実践を、地域ぐるみで取り組んでいくことが、これからとても重要になっていくに違いない。以前ある自治体で自然エネルギー導入に向けた「地域新エネルギービジョン」の策定に関わったが、将来、自治体レベルでは「地域食料調達ビジョン」なるものもきっと必要になってくる。そこには家庭菜園の普及啓発や「食べられる校庭」の普及、近郊農家との契約栽培などが盛り込まれるはずだ。都市と中山間地域の自治体間で食料供給に関する協力協定が結ばれるかもしれない。

私が担当する総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーション研究コースでは、2006年から社会実験施設として京都市左京区の大原に農家と田畑、そして中京区衣棚丸太町に築80年の京町家を借り受け、大学院生たちが食、環境、こども、アート、美容など、様々なテーマでユニークな実践を行っている。とりわけ「農と食」については重要なテーマとして、米や野菜づくりから料理して食べるという一連の行為を、あらゆる世代や対象への体験学習として提供してきた。そして京都の農業生産者や料理人などとのネットワークづくりにも積極的に取り組み、世界に拡がる「スローフード運動」とも交流を深めてきている。これらの動きに関わってきた学内外の人々は「お金で買う暮らし」から「自らつくる暮らし」、「生産者とともに歩む暮らし」へと、着実に変化してきた。

新島先生の言葉「良心ノ全身ニ充満シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ」は、現代社会においては「持続可能な未来の社会にむけ、市民発のイノベーション戦略を拓け」と響いてくる。社会の変革期にあって、こうしたミッションを担う人材を同志社から輩出していく責任を感じている次第である。

Hitoshi Nishimura

西村 仁志

総合政策科学研究科准教授

1963年京都生まれ。同志社中学校、同志社高等学校、同志社大学経済学部を経て京都YMCAに勤務、その後、環境教育の専門個人事務所「環境共育事務所カラーズ」を開業し自営。大学院総合政策科学研究科に社会人入学し、政策研究の道へ。2006年10月より現職。

同志社人訪問

JA全農（全国農業協同組合連合会）代表理事理事長

宮下弘さんに聞く

インタビュアー
三上結香さん
【法学部政治学科3年次生】

三上●まず、同志社大学を卒業されてからの道のり、そして現在のお仕事内容について教えてください。

宮下●工学部の機械工学第二学科を出て、最初は全農の研究施設、当時の営農技術センター自燃研究部というところに入りました。実は、私は大学に5年行っています。というのは、大学を卒業する時になって、心臓を悪くして弟が亡くなるということがあったのです。末っ子で親にもとてもかわいがられていた弟だったのですが、亡くなる直前にものすごく生きたいという執念を見せられた。そういう体験をして、大学へ行っているのが虚しくなってしまい、やめて働こうかと父親に相談したら、「学費は出してやるから何としても卒業しろ」と。それで1年留年して、卒業することにしたのです。そんなことがあったものだから、とにかく仕事をしたかった。自分で稼いで、一人立ちしたかったのです。私はこう見えて実は引っ込み思案なので、今でも演壇に立つのは嫌だし、初めての大きな会議は緊張します。とにかく就職して社会人になることをきっかけに自分の性格を変えたいと思っていました。そうして、昭和45年に技術センターに入りましたが、翌年の東京支所の自動車課配属を皮切りに、あとは大阪、札幌、名古屋と、ほとんど地方の経済連を対象にした営業をしました。農家に軽トラックを販売する仕事です。札幌時代からは、農協が経営するガソリンスタンドに燃料を売る仕事を始めました。全農の本来の仕事は、簡単にいえば、農畜産物を農家から購入、あるいは委託を受け、消費者の方々へ提供する、一方で肥料や飼料などを農家に提供することですから、私が携わってきたのは、少し毛色の違った仕事になります。その後、平成8年に東京支所の総合室長に就きました。営業の総まとめのような部署です。そして大阪支所の支所長、これは一般企業でいえば支店長みたいなものですね。それを3年務め、14年に常務理事、17年に代表理事専務、19年から現在の理事長というわけです。

三上●今のお仕事の魅力や喜び、あるいはご苦労などをお聞かせください。

宮下●一言では何ともいいようがないのですが（笑）、やはり一番感じるのは自分で商売をやっているということですね。赤字になれば頭を抱えるし、出資者の農協の方々に怒られないように心配しながら、部下を叱咤激励し、よくやってくれて利益が出れば喜ぶ。私の経験で申し上げると、失敗して覚えたことのほうがずっと多いです。単純にいいことの

宮下 弘さん
【1970年工学部 機械工学第二学科卒業】

1946年生まれ、長野県出身。70年営農技術センター自燃研究部入社、71年東京支所自動車課へ異動後、大阪支所、札幌支所、名古屋支所などを経て、96年東京支所総合室長。99年から3年間、大阪支所支所長を務めた後、02年常務理事、05年代表理事専務、07年より現職。

ＪＡ全農（全国農業協同組合連合会）代表理事理事長

宮下弘さんに聞く

記憶はあまり残っていません。若い頃のことですが、10人くらいのチームで毎日夜中まで頑張って仕事をして、期限までに間に合わせて無事に完成させたときの喜びは、何ものにもかえがたいものがありました。涙を流して喜んだ経験も何回かあります。

三上●今までで一番苦労されたことは何ですか。

宮下●今一番苦労しています（笑）。やっぱり責任がありますからね。大阪支所の支所長から常務になって、さらに専務になった。責任が大きくなって仕事も忙しくなりましたが、心のどこかでまだ上に理事長がいると思うのです。理事長になったらもう上には誰もいない（笑）。1年経って少しは慣れてきましたが、全体に気を配らないといけないし、全農に入って今一番忙しいのではないでしょうか。

三上●お仕事をしていくうえで信条とされていることは何でしょう。

宮下●仕事を進める時、あるいは議論をする時に大事なのは、文書を誰か無関係の第三者に見せてその内容がわかる、起承転結がはっきりしていて、5W1Hがあって、中身の細かいことはわからないにしても、こういうことが言いたい、したいのだということがわかることです。第三者が見て、その仕事の進め方がすぐに理解できるような資料になっていなくてはいけない。話をする時でも簡潔に、ポイントがわかるように話さないといけない。常に自分のしていることを第三者の目で見るということを注意していますね。

三上●学生時代の思い出はありますか。

宮下●私の下宿していた岩倉は当時、周りはほとんど農家でした。農家の2階だった私の下宿には、同志社だけじゃなくて京大、立命館の人もいました。先輩も後輩もいて、とにかく自由でしたね。京都の友達の1人に社長の息子がいて、1度だけ先斗町のお茶屋に上がったことがありますよ。自分ではお金を払っていないから、多分その友達の父親のツケだったんだろうけど（笑）。京都には、そういうことを許してくれる風土があります。同志社の学生だというと、学生証を置いて帰れば、1回の飲み代はツケにしてくれるとかね。京都は伝統がある一方で、すごく革新的だったり、逆に後から入ってきた人と打ち解けにくかったりしますが、私は今でも学生にとってはすごくいい町だと思っています。

三上●大学時代に学生がしておかなければならないことは何かありますか。

宮下●一般的に大学を出て入ってくる人たちは、みんなこなす能力はあるのです。だけど発展性がない。細かく指示を出せばきちんとこなすのだけれど、アバウトに言うと自分で考える習慣がついていない。今の人たちだけでなく、私たち自身も大学を出たばかりの頃はそう言われたのかもしれませんが、そういうところが目につきます。仕事はマニュアル通りにいかないことのほうが多いものです。確かに仕事で決まっているルールはあります。でもそれは昔決まったことであって、今から変えなければいけないこともたくさんあります。ルール通りにやることは大事ですが、ルールがおかしかったら変えるということが、とくにこの時代は必要になっています。昔は朝令暮改は良くないことでしたが、今は朝令暮改どころか、朝決めたことを昼には変えないといけない場合さえある。それほど変化のスピードが速いのです。悪い規定はどんどん改めていくという発想を持つことが、とくに上に立って仕事を動かす時には必要です。ただ、そういうことは学校の勉強では得られませんからね。

三上●そういう考え方はやはり、宮下さんの中でも仕事を始めてから身についたのですか。

宮下●そうですね。とにかく自分を変えたいと思って就職したわけですから。積極的な人間になろうと思ったから、会議では自分から発言するようにしたし、発言しようとしたらやっぱりおかしいところを探さなければならない。そうしているうちに、だんだん見る目がついてきます。ただ、これは日本人の一般的な悪い傾向なのですが、賛否を明らかにしないで、問題点だけを先に指摘する。まず賛成か反対かをはっきりして、その上で自分の意見を言わないといけません。

三上●そういう場合、賛成か反対かを決める時のご自分の判断基準はあるのですか。

宮下●やっぱり大事なのは、現実にできるかどうかです。学生のうちは夢でもいいけれど、社会に出るとやりたい、やってほしいと思うことは本当にやらないといけない。背伸びしてもできない目標を作ってもできるはずがないし、部下にやらせるわけにもいかない。実際そうしてできないケースが多いのです。努力して届く目標を設定する。やれないとわかっているのに、付和雷同して何も言わないで結局やれずに終わってしまうことが一番よくない。結果的に無駄な時間を過ごしてしまうことになるわけですから。

三上●せっかくの機会ですから、日本の農業についてお聞きしたいのですが、今、日本の食料自給率の低さが問題になっています。どうしていけばいいとお考えですか。

宮下●日本の食料自給率はカロリーベースで40％と言われています。このままでいいのかということは、私たちは従来から言い続けていることですが、世界的に見て中国やインドの人口増を受けた食料供給の不安は、近い将来もっと深刻になるのは間違いありません。そうなってからでは遅いので、可能な限り日本でできるものは日本で賄うべきだと思っています。そういう意味では、現在の状況

は日本にとって追い風といえるかもしれません。こういう機会に国民全体で考え、政治が先導して、日本の食料をどうするかという議論ができればと思います。全農でもそういう方向でいろんな広報活動を展開しています。自給率を上げるというよりも自給力、いざというときに最低限のものは作ることができるという態勢を整えておくことは、やはり国の役割です。

三上●私は滋賀県出身で、昔は私の実家の周りは田んぼと畑ばっかりでした。最近になってそこにマンションが建ったり、ショッピングセンターができたりして、暮らしは便利になり、町も活性化されたのかもしれませんが、食料自給のことを考えると、良くないことなのではと思ってしまいます。やはり具体的な対策が必要なのではないでしょうか。

宮下●それはなかなか難しいことで、私たちだけでできることではないし、やはり国の政策がなければなりません。私も長野県出身ですから、個人的には田舎の風景が好きです。棚田があり、蛍が飛んでいる昔の農村風景が都市部と共存していくべきだと思っています。農業とそれ以外の産業が両立できるように、国として方針を立ててやっていかなければなりませんね。

三上●今年、世界学生環境サミットが同志社大学で行われ、私はその実行委員会事務局で広報を担当しました。学内のエコプロジェクトでも活動し、環境問題には関心を持っているのですが、地球温暖化を防ぐためにCO2を削減しようと、現在、トウモロコシを使ったバイオ燃料の実用化が進んでいます。けれどその一方で、トウモロコシのバイオ燃料への転用は食料問題を引き起こしています。全農として、そうした環境問題と食料問題についてどういうふうに捉えておられるのでしょう。

宮下●日本国内でも様々な形でバイオ燃料の研究が進んでおり、私どもでもまだ立ち上がってはいませんが、新潟で米のもみ殻を活用し燃料化する研究をすすめています。基本的に食料をエネルギーに使うのは間違いだと思うし、バックボーンにきちんとした食料政策がないといけない。しかし、技術は日進月歩ですから、何もしていないといざやろうとしてもできません。先行投資として将来のために今やっておかないといけないのです。技術開発はやっておかないと次の技術に辿り着けない。あくまでも将来のために、ということですね。

三上●学生環境サミットでも人びとの環境意識を変えようという目的があって、こまめに電気を消すなど、身近なところから変えていこうとしているのですが、今の意識を変えていくのは簡単なことではありません。

宮下●私たちの世代は、米の1粒でも残したらもったいないという意識が根づいていますが、やはりそういう教育をしていくことが大事ですね。食品の賞味期限についても、それを過ぎたからといって食べられないものでは決してない。なのに、一般家庭では賞味期限をすぎたら捨ててしまうことも少なくない。もったいないですよね。日本人の中から、そういうもったいないという意識が薄れてしまっていることが根本的に問題です。身近なところから変えていくという意味では、私がいつも言っているのは、資料の紙の枚数を減らしなさいということです。内容を精査すれば、10ページのものが2ページにできると思うケースがいっぱいあります。まず紙を半減する、そして会議の時間も半分にする。場合によっては立ってやってもいい。そうしたら半日かかる会議が1時間で終わります。そういった身近なところのちょっとした無駄をなくしていく。目に見えるところからやっていかないと、なかなか前には進みません。あなたのような学生の人たちが真剣に取り組んでくれているのは、日本の将来にとってとても心強いことですね。

三上●私も小さなことから気をつけていきたいと思います。本日は貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

INTERVIEWER

三上 結香さん
法学部政治学科3年次生

今年6月、同志社大学で開催された「世界学生環境サミット in 京都」実行委員会で広報部長（取材担当）を務める。環境問題とともに、農業・食料問題にも高い関心を持つ。

社会や人に貢献できる仕事がしたい

私自身、環境問題と広くつながっている問題なので、食料問題についてもすごく興味があり、どんな考え方をお持ちなのか楽しみにしていました。とても気さくに話していただいてうれしかったです。卒業後のことはまだ具体的には考えていませんが、自分が頑張ることで社会や人に貢献できるような仕事がしたい。できればコンサルティングの方向へ進みたいと思っています。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

レールは自分で敷いていく。目標さえぶれなければ、どういう道を歩いても辿り着けるはず。

昨年11～12月、東宝の新劇場「シアタークリエ」のこけら落とし公演「恐れを知らぬ川上音二郎一座」(作・演出／三谷幸喜)のプロデューサーを務めました。今年は梅田芸術劇場(2月)と日生劇場(3月)で「ベガーズ・オペラ」、シアタークリエで7月に「デュエット」、10月には「私生活」をプロデュースします。

でも私は、プロデューサーを長くやるつもりはありません。同志社大学を卒業後、演出家を目指し上京して演出・振付家の謝珠栄先生のところへ飛び込み、演出助手として修業したあと、東宝からプロデューサー助手として誘われました。その後のプロデューサーとしてのオファーをなぜ受けたかという

と、将来、私が作りたいと考えているショウのシステムを作るには、プロデューサーの視点が必要だと思ったからです。陸上競技でいえば、100m走、200m走という既存の競技ではなく、たとえば自分がやりたいのが140m走だと見定めたら、その競技を自分で作るしかない。作るには、その競技を成立させるプロデューサーが必要です。そのためにプロデューサーの視点を、自分の中に持っておきたかったのです。

もともと私は、最初から枠を決められていると枠からはみ出してしまって、レールがなければ自分で敷くタイプでした。高校も同志社で、管弦楽部に入ってトランペットを吹いていたのですが、同志社大学のオーケストラには入りませんでした。もう少し、アヴァンギャルドなレパートリーを演奏したかったんです。そこで、自分たちの新しいオーケストラを作りました。友人に声をかけ、2人でワープロで作ったチラシを京都コンサートホールの前で撒くことから始めました。情熱を持って何かをやろうとしている人間の周りには、それに呼応する人たちが自然に集まってくるものです。一人ひとりが熱意を持ってやれば、その人にふさわしい役割がおのずと割り振られて、さらにまた頑張れる。今の仕事にも通じることを、オーケストラを作る過程で体感しました。

小さい頃から総合芸術の仕事をしたいと思っていましたが、芸術系の大学に進むことは考えませんでした。芸術は学問として学ぶものではなく、現場で覚えていくものだと思っていたのと、一生で一度しかない大学での自由な時間を、自分が今後の人生で関わりそうにないジャンルに身をおく人たちと過ごしたいと考えたからです。出会う可能性の低い人たちに今出会っておかないと、とても狭い世界で生きていくことになると思ったのです。だから法学部政治学科を選びました。芸術がなくても生活はしていけるけど、生きることを楽しむために、芸術で世の中に貢献していきたい。そう決意を固めた4年間でもありました。将来これをやりたいという明確な目標があれば、途中で、一見違うようにみえることをやっていても、それを力に変換していけると思います。大学の4年間は、そういう時間だと思います。

最終的には、京都から世界に持っていけるショウを作りたい。ショウ・カルチャーを京都に築きたい。それが私の夢です。

P R O F I L E

小林 香さん
【2000年法学部政治学科卒業】
ショウ・クリエイター

祖父・父・叔父が写真家という環境の中、6歳の時、チャップリンの映画「街の灯」を観て、総合芸術の世界に憧れを抱いた。18歳で「京都フィロムジカ管弦楽団」を設立し、初代団長に。大学時代、奨学金を得て米国ニューヨーク・フィルハーモニックにインターン留学。2004年、東宝株式会社と最年少の26歳で女性初の演劇プロデューサー契約を交わす。ショウ、ミュージカル、芝居の製作に携わるほか、コンサートの演出家、作詞家としての顔も持つ。

MY JOB, MY LIFE

私と「仕事」 第39回

何のために仕事をするのか。ハードルを越えれば、その先に求めているものが見えてくる。

大学を卒業後、最初に就職したのは商品先物の会社でした。大学の授業でアメリカの先物市場が非常に大きく、証券市場と変わらない規模になってきているというのを聞いていたので、日本ではまだ小さくても可能性がありそうだと思ったことが理由です。就職後1年目で結婚、2年目には子どもが生まれていました。入社する前から、その会社は忙しく休みがほとんどないとは聞いていたのですが、実際入ってみると、本当に休みがなく、家庭で過ごす時間がまったくと言っていいほど取れないのが現実でした。自分は何のために仕事をしているのだろう。そう考えるようになって転職を決意しました。

家族がいるのに何度も転職はしたくない、次はしっかり腰を据えてできる仕事がいい。それまでやってきた仕事の知識が生かせる会社を考えていた時、りそな銀行の募集がありました。ちょうど銀行が個人向けの投資信託や保険商品を扱い始め、その方面のスキルを持った人材を求めていた時期でした。2005年11月、入社して最初の配属は羽曳野支店。資産のある富裕層が多く、個人向けの運用商品に力を入れていて、3年半の先物取引の営業で培ったスキルが生きました。次の堺東支店では、アパート・マンションローンの推進と不動産の案件発掘を担当。これまで経験したこととはまったく違う分野でしたが、羽曳野支店にいた頃から、運用商品だけではなく本来の銀行業務も早く憶えなくてはと思い、希望を出していたのです。

そして今年5月、現在の大阪営業部法人営業室に異動しました。それまではすべて個人を相手にした仕事で、法人はまったく未経験。とくに大阪営業部は、関西の上場企業との取引が集中しています。今やっているのは、既存の顧客が取引している会社を対象にした新規開拓。いわば、分厚い壁に風穴を開ける仕事です。個人と法人ではやはり様々な違いがあり、入り口のハードルの高さを痛感しています。今はとにかく、目の前にあるハードルを1つひとつクリアしていくこと。その先に、自分自身が本当に求めているものが見えてくると思っています。

大学の4年間を振り返ると、本当に束縛を受けず自由でいられた。その時にしたいことを、思いきりやっていた時代でした。けれど、その頃に遊びに行ったり旅行に行ったりした時の話題が、今一番お客様と話していて共感を得られるのです。もっと真面目に勉強しておけばよかったかなと思うことはありますが、決して無駄な4年間ではなかったと思います。

大学時代は、やりたいことをやればいい。それが許される期間です。難しく考えるよりいろんな経験をした方が、後になって必ず生きてきます。

PROFILE

立野 智一さん
【2002年経済学部卒業】

りそな銀行 大阪営業部
法人営業室

中学（同志社国際）から同志社。中・高とテニス部に籍を置き、中学時代には全国大会にも出場した。中途入社後のジョブローテーションでは、個人営業、ローン推進、法人新規開拓と次々に経験。「家族との時間を作りたい」と決意した転職が、自身のキャリア形成をも大きくステップアップさせることになった。子どもは娘3人。「家族がいるから頑張れる」と微笑む顔は誇らしげだ。

●10月23日(木)新作試写会　要整理券(詳細未定)
●11月13日(木)講演「世界のCMから見えるもの」(時間未定)
ジャン=クリスチャン・ブーヴィエ氏
(フェスティバルプロデューサー)
●11月16日(日)ライブ「phonolite　京都公演」19:00 ～
●11月20日(木)映画上映「アニメーション作家・辻直之の世界(仮題)」
(詳細未定)
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課
TEL:075-251-3270
※12月も開催いたします。
※詳細は決定次第、学内掲示板・チラシ・大学HPなどで告知します。
※内容は都合により変更となる場合があります。

観に行こう聴きに行こう♪ 学生団体10～11月のイベントスケジュール

【寒梅館ハーディーホール】
10月19日(日)学生混声合唱団CCD
『シベリア抑留死没者追悼音楽祭』(午後開催予定)
11月15日(土)ギタークラブ『第48回定期演奏会』
(時間未定) 入場無料
11月23日(日・祝)邦楽部『第77回定期演奏会』
(時間未定)入場無料

【寒梅館クローバーホール】
10月17日(金)F.B.I『10月上映会』
12:30 (12:00)～19:00 入場無料

【京田辺校地ーハローホール】
10月1日(水)同志社プロレス同盟「興行試合」時間未定
10月3、4日(金、土)The Amplugged「10月ライブ」時間未定
10月6、9日(月、木)soul 2 soul「秋多目ステージ」12:30～
10月11日(土)Hocus-Pocus「マジックショー」時間未定
10月16日(木)F.S.S.「タナベロックフェスティバル」時間未定
10月18日(土)軽音サークルPENTA「サークル演奏」時間未定
10月21日(火)喜劇研究会「お笑いライブ」時間未定
10月22、23日(水、木)FBI「10月上映会」時間未定
10月25日(土)FAC「定期演奏会」時間未定
11月15、22日(土)コクトウ「EVE祭前ライブ」時間未定

【学外】
11月5日(水)交響楽団『第80回記念定期演奏会』
19:00 (18:00)～ S席1500円、A席1000円
ザ・シンフォニーホール(JR環状線「福島」駅下車、北へ徒歩7分)
11月29日(土)マンドリンクラブ『第153回定期演奏会』
18:00 (17:30)～20:30　500円
長岡京記念文化会館(阪急京都線「長岡天神」駅下車、西へ徒歩6分)

ah アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を、書物やテレビを通してではなく、直接講師の人柄に接することにより得られる機会として、アッセンブリーアワーという時間を設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展等、多様な形態で開催しています。
今回も、皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。

【応募要領】
・対象:本学学生
・募集する企画の実施期間:10月～12月
・応募期間:10月6日(月)～10月23日(木)
・学生支援課(両校地)に備え付けの所定の企画書を提出してください。
・実施については学生支援課で選考・決定します。
・実施予算及び補助額は1企画10万円程度とします。
・企画終了後、報告書及び決算書を提出していただきます。
【お問い合わせ先】
今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
Mail ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp

2009年度同志社ローム記念館プロジェクト募集

同志社ローム記念館では、2009年4月からローム記念館を拠点に活動を行う公募プロジェクトを募集しています。採択されると、プロジェクトルームが利用できる、必要経費が付与されるなど、1年間の活動に対するサポートがあり、プロジェクトによる学びの環境を得ることができます。あなたのアイデアを仲間とともにカタチにしてみませんか。
詳しい募集要領や説明会、プロジェクトに関する情報は、ローム記念館プロジェクトコミュニティサイト(http://pp.drm.doshisha.ac.jp/)からご覧ください。
【2009年度プロジェクト活動期間】
2009年4月7日(火)～2010年3月24日(水)<予定>
【エントリー締切】2009年1月20日(火)17:00
【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)
TEL:0774-65-7800
【E-mail】jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト参加者募集

季節のイベント参加者募集
【場所】京都市上京区寺町通今出川下ル「でまち家」
【時間】10:00 ～12:00
【対象】小学生以上15名
【参加費】無料
10月18日(土)すいとん作り
旬の野菜をたっぷり入れて、おいしい「すいとん」を作りましょう。京野菜のお話や、昔の食文化のお話も聞けます。
11月15日(土)俳句ハイク
芸術の秋！食欲の秋！読書の秋！
色づきはじめた御所を歩いて、日本の四季を俳句に詠んでみませんか。
井戸端会議参加者募集
「学生(中高生も含む)」「大人」とが膝をつき合わせながら、時事問題や様々な考え方があり得る身近な問題について、一定のルールと方式の中で議論を行います。
【開催日】10月28日(火)、11月25日(火)
【場所】京都市上京区寺町通今出川下ル「でまち家」
【時間】19:00 ～21:00
【対象】大学生若干名

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課「でまち家」
TEL・FAX:075-211-5176
Mail ji-machi@mail.doshisha.ac.jp

A N N O U N

同志社京田辺祭2008 愛称:ADAM祭 ～きょうたなべでであいふれあいめぐりあい～

京田辺校地では、11月1日(土)、2日(日)の2日間、同志社京田辺祭2008を開催します。期間中は、学生・教職員をはじめ、けいはんな地区の様々な団体が演奏、模擬店、体験教室、講演会等を催し、お祭を盛り上げます。このお祭では、学生、教職員、市民が一体となって共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指しています。京田辺校地にぜひお越しいただき、祭のにぎわいを肌で感じてみてください。
【日時】2008年11月1日(土)、2日(日)
【場所】京田辺校地
【お問い合わせ】同志社京田辺祭2008実行委員会
TEL:0774-65-7832

同志社EVE

同志社創立133周年を記念して、今年も今出川校地を中心に同志社EVEが開催されます。日常の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として…講演会や演劇、演奏会等が華々しく開催されます。
【日程】前夜祭　11月25日(火)
出店期間11月26日(水)～28日(金)
【場所】今出川校地
【お問い合わせ先】第133回全学EVE実行委員会
TEL:075-251-4452

障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集！

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、是非スタッフに登録してパソコン通訳、ビデオ字幕付けなどのスタッフとして活動してください！両校地学生支援課窓口にて、随時受け付けています。各種講習会も開催中！
謝礼:880円/時間
支援活動の内容
聴覚障害:ノートテイク、パソコン通訳、手話通訳、
ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど
視覚障害:講義資料・試験問題の点訳、電子データ化、
拡大コピー、対面朗読、代筆、代読、ガイドヘルプなど
肢体不自由:代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など
【お申し込み・お問い合わせ先】
京田辺校地学生支援課　障がい学生支援室
TEL:0774-65-7411
E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp
今出川校地学生支援課　障がい学生支援室
TEL:075-251-5273
E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp

新入生の学費について

2009年度および2010年度入学生の学費については、6月12日開催の大学評議会ならびに6月28日開催の法人理事会において決定されました。
詳細はホームページ(学部はhttp://www.doshisha.ac.jp/nyushi/、大学院はhttp://www.doshisha.ac.jp/daigakuin/の「学生納付金」の項)をご参照ください。
なお、在学生の学費については、すでに入学時に明示しているとおりであり、変更はありません。

クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心に、様々なイベントを開催します。
【会場】寒梅館クローバーホール(地階)
【料金】本学学生・教職員はすべて無料
●10月7日(火)映画上映(詳細未定)
●10月14日(火)『出草之歌』NDU上映会(詳細未定)
●10月28日(火)ハリウッド映画講義1/クリス・フジワラ氏(映画評論家)による講演と映画上映

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課
TEL:075-251-3270
※11月・12月も開催いたします。
※詳細は決定次第、学内掲示板・チラシ・大学HPなどで告知します。
※内容は都合により変更となる場合があります。

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中！

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。
【対象】一般・他学生
(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)
【会費無料】
【特典】寒梅館イベント情報の郵送、案内メール配信、
映画招待券やコンサート入場券のプレゼント・
入場料割引、学生団体による公演・
お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引etc.
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課
TEL:075-251-3270

WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある！」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。
【会場】寒梅館ハーディーホール
【料金】本学学生・教職員はすべて無料

cinema

●10月9日(木)『いのちの食べかた』15:30/18:30
監督:ニコラウス・ゲイハルター
●10月16日(木)『Mayu－ココロの星－』10:30/13:30/16:00/18:30
監督:松浦雅子　原作:大原まゆ　出演:平山あや
●10月30日(木)『The 11th Hour』15:30/18:30
制作:レオナルド・ディカプリオ

One Purpose
<ワンパーパス> 同志社大学通信156号
2008年10月1日(4・6・10・12月年4回)発行
発行 同志社大学 企画部広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL 075-251-3120 FAX 075-251-3080
E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

PRINTED WITH SOY INK

My Purpose 挑戦する人

学生対抗「情報危機管理コンテスト」で3連覇

～適切なトラブル対応の経験を実社会でも生かしたい～

今年6月、第12回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム(SCCS2008)に併設して行われた第3回情報危機管理コンテストで、私たち理工学部情報システムデザイン学科ネットワーク情報システム研究室のチームが、最優秀賞を受賞しました。同志社大学が最優秀賞を獲得したのは、2006年の第1回から3年連続です。

コンテストは書類選考を通過した5校のチームがそれぞれ仮想企業に派遣されたSE(システムエンジニア)という設定で、その会社のサーバ管理をします。ホームページが無断で書き換えられたり、迷惑メールが送信されるなどのトラブル、つまりコンピュータネットワークに対して行われる様々な攻撃や、クライアントからのクレームに素早く対処し、正確に原因を解明、二度と攻撃を受けないための対応策を上司役のスタッフに提案・報告するという内容でした。

私たちのチームは、私のほかに大学院工学研究科の先輩、門脇恒平さん、植田健太さん、岩崎哲弥さんの3人。基本的な条件設定は各チーム共通ですが、発生するトラブルはそれぞれで異なります。別のチームの行動が私たちに影響を及ぼすなど、必ずしも各チームが完全に独立しているわけでもありません。どんなトラブルが発生するかはコンテストの現場に行くまではわからないので、いかに速くトラブルの原因を突き止め、的確に対処するかがポイントになります。

私はお客様からのクレームの電話を受けたり、受信したメールに対応する窓口としての役割を担当しました。私からの情報をもとに、植田さんと岩崎さんが技術者として問題解決に当たり、門脇さんが全体のフォローに携わりました。前回までは技術面の評価は高かったものの、お客様への対応や上司への報告の仕方などが課題だと指摘されていたので、今回はそのウイークポイントをなくすように努力しました。私は今回が初めての参加でしたが、そのせいで連覇を途切れさせたくなかったので、電話対応の練習を中心に、準備を周到に行いました。現場でも、4人のチームワークがスムーズにいくように、雰囲気を明るくしようと頑張りました。

コンテストでは現実の社会に近い形で、問題解決に取り組みます。自分が社会に出るまでにそうした体験ができたことはとても貴重でしたし、実際に就職してネットワークの仕事をしていく上でも、この経験を生かしていきたいと思っています。

Profile

松村 百合さん
【工学部情報システムデザイン学科4年次生】